

かごしまの農業 2024



令和6年3月
鹿児島県農政部

目次

I 主要施策の概要

- ★ 食料安全保障の強化・・・1
- 1 生産振興, 販売・流通等・・・2
- 2 安全で安心な農畜産物の安定供給・・・5
- 3 担い手確保・育成・・・6
- 4 農地利用, 生産基盤等・・・7
- 5 生産性向上・・・8
- 6 農村振興・・・10
- 7 農業災害防止等・・・11
- 8 食育及び地産地消・・・12

II 本県の地理

- 1 位置・・・13
- 2 地勢・・・13
- 3 気象・・・13

III 農業の概要

- 1 概要・・・14
 - (1) 全国における本県農業の状況
 - (2) 農業産出額
 - (3) 生産農業所得
 - (4) 県内経済における農業の地位
- 2 農業者・・・17
 - (1) 個人経営体数
 - (2) 基幹的農業従事者
 - (3) 担い手
 - (4) 新規就農者
 - (5) 企業等の農業参入
 - (6) 女性農業者
- 3 農用地・・・21
 - (1) 耕地面積
 - (2) 農業経営体数と1経営体当たり経営耕地面積
 - (3) 耕地利用率
 - (4) 荒廃農地
 - (5) 農地流動化
 - (6) 農業農村整備
- 4 流通・販売・・・24
 - (1) 農畜産物の輸出
 - (2) 6次産業化の市場規模
 - (3) 食品製造業の出荷額
 - (4) かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)
- 5 農業災害・・・26
 - (1) 農業保険(農業共済, 収入保険)
 - (2) 鳥獣被害額

IV 品目別の生産動向

- 1 生産状況・・・27
- 2 最近の情勢と今後の推進方向
 - (1) 米・・・28
 - (2) さつまいも・・・29
 - (3) 野菜・・・30
 - (4) 果樹・・・31
 - (5) 花き・・・32
 - (6) さとうきび・・・33
 - (7) 茶・・・34
 - (8) 葉たばこ・・・35
 - (9) 肉用牛・・・36
 - (10) 乳用牛・・・37
 - (11) 豚・・・38
 - (12) 採卵鶏・・・39
 - (13) 肉用鶏・・・40

V 作物カレンダー

- 作物カレンダー・・・41

VI 農政の推進体制

- 1 農政部予算・・・44
- 2 農政部機構図・・・45

主要施策の概要

本県の地理

農業の概要

品目別の生産動向

作物カレンダー

農政の推進体制

I 主要施策の概要

★食料安全保障の強化

世界的な人口増加や経済発展に伴う食料需要の拡大等に加え、ウクライナ情勢等により、食料や生産資材の多くを海外からの輸入に依存する我が国にとって、食料安全保障上のリスクは高まっております。

本県は全国第2位の農業産出額を誇り、我が国の食料供給基地として重要な役割を担っており、農業者が安心して営農を継続できることが食料安全保障の強化にとって重要です。

〈食料安全保障の強化に向けた取組〉

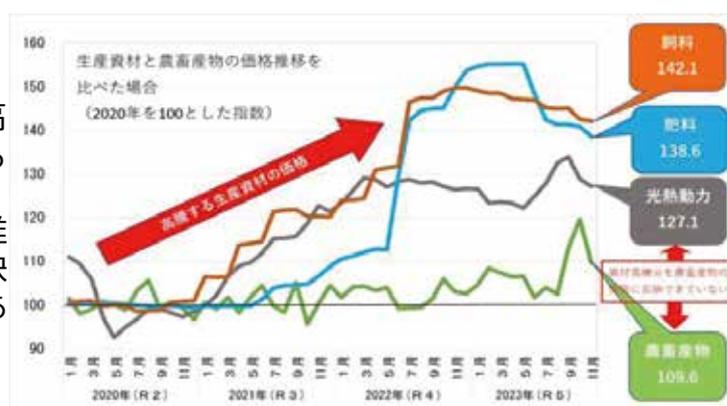
- ・ 県では、国の施策と足並みを揃え、食料の安定生産・供給や肥料など生産資材の生産拡大を図る取組等を実施しています。
- ・ 食料の安定生産・供給については、生産基盤の強化を図るため、冷蔵貯蔵施設や農業施設・機械の整備の支援などを実施しています。
- ・ 生産資材の生産拡大については、畜産が盛んな本県の特徴を生かし、県農業開発総合センターにおいて、堆肥の配合割合が高い肥料の開発や、自給飼料の増産を図るため、飼料作物の種子代への助成や飼料生産を支援する組織が受託面積を拡大する際の経費への助成などを実施しています。

事業名	事業内容
産地パワーアップ事業	地域の営農戦略として定めた「産地パワーアップ計画」に基づき、意欲のある農業者等が高収益作物・栽培体系への転換等を図るため、施設整備や農業機械及び省エネ機器の導入等を支援
地域資源フル活用飼料増産対策事業	飼料価格の高騰が続く中、飼料自給率の向上を図るため、自給飼料の増産に向けた取組を支援
畑地帯総合農地整備事業	畑地帯における畑地かんがい施設やほ場の整備、農道整備等の総合的な基盤整備を実施

〈生産資材価格の動向〉

ウクライナ情勢の緊迫化や円安等に伴い、燃料・肥料・配合飼料等の生産資材価格が高騰し、農畜産物の生産コストが上昇している状況です。

一方で、農畜産物の価格は横ばい傾向で推移しており、コスト上昇分を販売価格に反映しきれず、農業の生産現場は厳しい状況にあります。



〈各種支援策〉

県では、令和4年5月に、各地域振興局・支庁に相談窓口を設置し、農業者からの生産資材の価格高騰に対する相談に対応しています。

生産資材価格高騰への対応では、燃料については、国のセーフティネット事業への加入時に負担する経費の一部支援や、ヒートポンプなどの省エネ機器等の導入支援など、肥料については、肥料コスト上昇分の一部支援など、配合飼料については、国の配合飼料価格安定制度に加入している生産者の負担経費の一部支援などを講じたところです。

1 生産振興，販売・流通等

〈かごしまブランドの確立等〉

かごしまの強みをしっかり生かせる農畜産物を「かごしまブランド産品」として指定し，これらの産地づくりと販売促進活動を展開しています。

なお，一定の基準を満たした生産者団体等を「かごしまブランド団体」として認定しています。

令和6年1月末現在，170団体が，「かごしまブランド団体」に認定されています。



かごしまブランドの新たなキャッチコピー

和牛日本一に輝いた鹿児島黒牛など「かごしまブランド産品」を中心に，首都圏のホテル・レストランや大消費地の量販店等でのPR，知事トップセールスの実施，鹿児島黒牛・かごしま黒豚販売指定店，かごしま茶販売協力店の拡大など，県内外での販売促進活動を展開しています。

また，県内で生産される高品質で希少性のある果物について，適正に評価される販路を開拓するため，生産者等が行う販売促進活動を支援しています。



レストランフェアでの知事トップセールス



調理師専門学校での
かごしまの「食」発表会



かごしまの食ウェブサイトによる県内外への情報発信



かごしまの食ウェブサイト
<https://www.kagoshima-shoku.com/>

〈農畜産物の生産振興及び銘柄産地の育成〉

農林水産物・食品のうち，品質等の特性が産地と結びついており，名称が特定できる産品を，知的財産として国が保護する「地理的表示保護制度（GI制度）」を推進しています。

「鹿児島の壺造り黒酢」「桜島小みかん」「辺塚だいだい」「鹿児島黒牛」「えらぶゆり」「種子島安納いも」「種子島レザーリーフファン」が登録されています。



〈農畜産物の輸出拡大等〉



農林水産物輸出用統一ロゴマーク

日本一の生産量を誇り、第12回全国和牛能力共進会で日本一を獲得した鹿児島和牛やさつまいものほか、お茶やきんかんなど多くの農畜産物が、海外へ輸出されています。

国際水準GAPの取得支援など輸出に意欲的な農業者等への支援で生産体制を強化する取組と、県内産地と連携した集出荷業者等の海外販路開拓への支援による県産農産物等の輸出促進や、デジタルコンテンツを活用した県産品プロモーション、海外小売店等での鹿児島フェア、輸出商談会の開催など販売力を強化する取組を行っています。さらに、令和5年度には輸出推進体制「GFP鹿児島」を設置し、海外の規制や大ロット等のニーズに対応する輸出産地の形成等に取り組んでいます。



香港レストランにおける鹿児島県産農畜産物プロモーションの実施



輸出相手国での食品展示会における「鹿児島和牛」PR

牛肉は、県食肉輸出促進協議会を中心とした販路拡大に取り組んでおり、香港、台湾をはじめとするアジア諸国、EU等への輸出が順調に増加しています。県食肉輸出促進協議会を中心とした、食品展示会や商談会への参加、高級部位（ロース、ヒレ）以外の多様な部位の利用促進を図るためのカット技術の普及、「鹿児島和牛」を取り扱う販売指定店の拡大とともに、「鹿児島和牛」ならではの魅力が詰まったPR動画を作成し、さらなるPRの強化に取り組めます。



県輸出協統一ロゴマーク

「鹿児島和牛」GIマーク

カット技術の普及

「鹿児島和牛」(左)、「かごしま黒豚」(右)

〈6次産業化の推進〉

農林水産物の付加価値創出を通じて、農山漁業者の所得向上や雇用の確保など農山漁村の活性化を図るため、6次産業化を推進しています。

商品開発等に関する専門家の派遣や県内外で開催される商談会への出展、販売機会の提供など、伴走型の支援を展開しています。

また、大隅加工技術研究センターにおいて、リモートによる相談対応や加工技術の指導などを行っています。



専門家による相談対応



商談会への出展支援



リモートによる加工相談



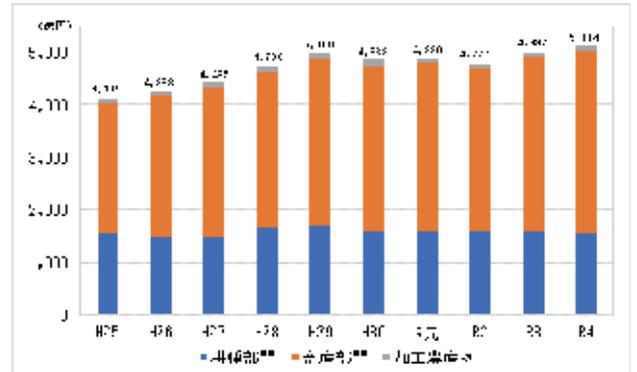
加工技術の指導状況

農業産出額・農林水産物輸出額が過去最高を記録

〈農業産出額〉

本県の令和4年農業産出額は、対前年117億円増の5,114億円で過去最高を記録し、6年連続で全国第2位を堅持しました。

部門別では、耕種部門が1,560億円(構成比30.5%)、畜産部門が3,473億円(構成比：67.9%)、加工農産物部門が81億円(構成比1.6%)となっています。



〈農林水産物輸出額〉

本県の令和4年度の県産農林水産物の輸出額は前年度比5%増の約327億円となりました。前年度に引き続き、農・畜・林・水産物全ての輸出額が増加し、公表開始以降最高額を更新しました。

品目別では、畜産物が約134億円、農産物が約23億円、林産物が約34億円、水産物が約136億円となっています。

また、主な輸出先国・地域では、米国 約138億円、香港 約47億円、中国 約37億円、EU 約28億円、台湾 約27億円、シンガポール 約14億円となっています。



「食べて応援」うんまか鹿児島島の牛肉

本県の肉用牛は、産出額日本一であり、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会において和牛日本一の連覇を果たしました。

一方、配合飼料価格の高止まり、牛肉在庫量の増大の中、子牛価格は下落しており、肉用牛農家の経営は厳しい状況です。

県では、「『食べて応援』うんまか鹿児島島の牛肉」と称して、和牛日本一の連覇から1周年となる令和5年10月20日に、県民の皆様に対し、県産和牛肉の消費拡大の御協力をお願いし、県ホームページや、県公式SNSを通じて、各市町村で行われる産業祭での県産和牛肉の試食・販売の開催情報等を発信しました。県としては、引き続き、食肉事業者をはじめ、関係機関・団体等と連携し、県産和牛肉の消費拡大に向けて取り組みます。

〈実施した主な取組〉

- (1) 県庁食堂での県産和牛メニュー提供
- (2) 県職員向けにテイクアウト商品の販売
- (3) 県職員生協による精肉商品の販売
- (4) 移動販売車による県産和牛の販売
- (5) 県政広報番組や県政かわら版による牛肉の消費拡大の呼びかけ



個人や企業など販売場所のご紹介やご活用のご協力をお願いします！

県ホームページに掲載しているポップ

2 安全で安心な農畜産物の安定供給

〈食の安全・安心対策〉

安全・安心な県産農林水産物を生産し、消費者からの信頼を確保するため、「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」の認証取得の促進や普及・拡大等に取り組むとともに、国際水準GAPの普及を図るため、GAP指導員の育成やGAP認証の取得支援などに取り組んでいます。

また、関係機関と連携しながら、食品表示制度の普及・啓発や食品表示実態調査を通じた小売業者等への指導などを実施し、県民の信頼を確保する食品表示の適正化に取り組んでいます。



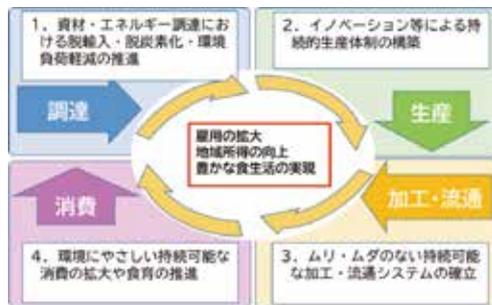
K-GAP PRフェア



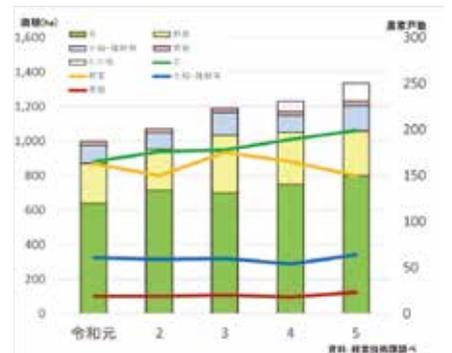
食品表示実態調査の状況

〈環境との調和に配慮した産地づくり等〉

令和5年3月に、県内全市町村と共同して策定した「環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画」において、①化学農薬の使用量低減、②化学肥料の使用量低減、③有機農業の取組面積拡大、④有機JAS認証取得割合の拡大、⑤バイオマス利用率の拡大、⑥産業部門における温室効果ガスの排出量削減を目標に設定し、環境と調和した産地づくりを推進するとともに、消費者への理解促進に取り組んでいます。



みどりの食料システム戦略（イメージ）



有機農業の取組面積及び農家戸数の推移

地域ぐるみで有機農業を推進しているオーガニックビレッジの活動や、環境にやさしい栽培技術実証の産地での取組を支援するとともに、環境負荷の低減に取り組む生産者の計画を認定する制度（通称：みどり認定）の推進を図っています。

みどりの食料システムの実現に向けた産地での取組

いぶすき農協オクラ部会では、露地オクラ栽培において、ほ場の周辺や畝間にソルゴーを植栽して土着天敵を集め、害虫防除に活用する技術の確立と普及に取り組み、化学農薬の使用回数の削減と作業の省力化につなげています。



この取組が評価され、「令和4年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で九州農政局長賞を受賞しました。

また、令和5年8月には、県内で初めてJAいぶすきエコオクラグループが「みどり認定」を取得し、消費者に向けたPR活動にも力を入れています。

このように、みどりの食料システムの実現に向けた各産地での環境負荷低減の取組が広がりつつあります。

3 担い手確保・育成

〈経営改善意欲のある農業者の確保・育成〉

効率的かつ安定的な経営の実現を目指す認定農業者などの担い手を確保・育成するため、農業経営の法人化、企業的農業法人の育成など、担い手の経営発展につながる各種研修会の開催や専門家派遣による課題解決に向けた取組を推進しています。

また、農業の新たな担い手として、企業等の農業参入を促進するとともに、農福連携の推進や外国人材の安定的な受入に向けた環境整備など、多様な人材の確保に向けた取組を推進しています。



経営発展に向けた専門家派遣

〈新たに就農しようとする者の確保・育成〉

新規就農者を確保・育成するため、県内外での就農相談の実施、農業大学校での教育・研修、就農に向けた資金の交付、就農後の機械・施設等導入の支援など、就農準備から経営安定まで総合的に支援しています。



就農・就業相談会の開催

〈女性農業者が活躍できる環境整備〉

基幹的農業従事者の約4割を占める女性の活躍を促進するため、女性農業経営士の認定や海外農家体験研修・スキルアップ講座等の実施によるリーダー育成、女性農業者グループ等の活動支援など、女性が地域農業の担い手として、活躍できる環境づくりを推進しています。



女性農業経営士養成研修

〈集落営農の育成・活動促進等〉

集落営農の活動を促進するため、小規模な農業者や高齢農業者も含めた地域の話合い活動に基づき、ビジョンづくりや人材の確保、収益力向上に向けた新規品目の導入、効率的な生産体制の確立に向けた取組などを推進しています。

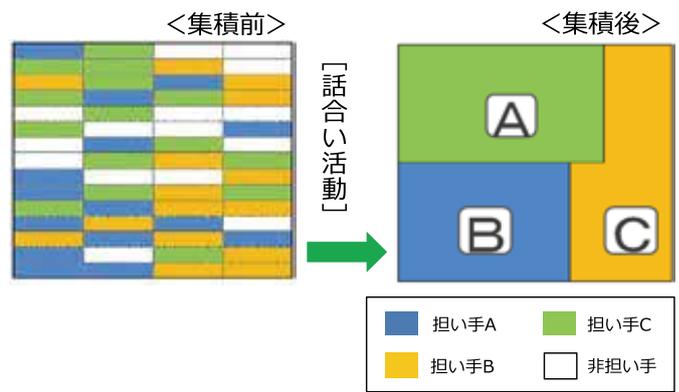


集落営農推進研修会の開催（Web）

4 農地利用，基盤整備等

〈農地利用〉

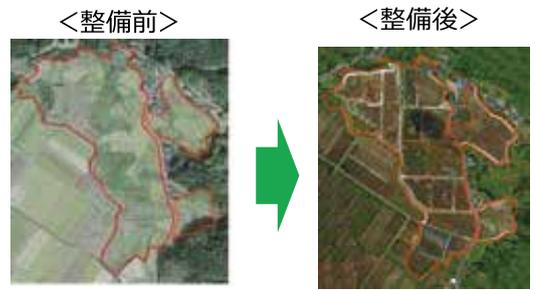
農地の効率的な利用を推進し，農業生産力の維持向上を図るため，農地中間管理機構や市町村，農業委員会等と一体となって，農地利用の意向把握や，地域計画の策定の話合い活動，基盤整備の取組などと連携した農地中間管理事業の推進による担い手への農地の集積・集約化に取り組んでいます。



〈基盤整備等〉

農業の競争力強化や農地の集積・集約化を図るため，農地の大区画化・水田の汎用化，ほ場や畑地かんがい施設の整備などを推進しています。

これまでに造成された土地改良施設の機能を今後も持続的に発揮させるため，施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るストックマネジメントに取り組んでいます。



ほ場整備による農地集積



畑地かんがい施設による散水状況



老朽化したポンプの補修

地域計画について

令和4年5月に農業経営基盤強化促進法等の一部が改正され，市町村においては，地域での話合いにより，目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を令和6年度末までに策定し，それを実現すべく，農地バンクを活用した農地の集約化に向けて取り組むこととなりました。

県では，研修会の開催やモデル地域の設置など，「地域計画」の策定・実行に向けた取組を関係機関・団体と一体となって推進しています。



地域計画

- ① 地域における農業の将来の在り方
- ② 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標
- ③ 農業者及び区域内の関係者が②の目標を達成するためとるべき必要な措置
- ④ 地域内の農業を担う者一覧（目標地図に位置付ける者）
- ⑤ 農業支援サービス事業者一覧



5 生産性向上

〈スマート農業の推進〉

「スマート農業」とは、ロボット技術やAI, ICT等を活用して、超省力・高品質生産を可能とする新たな農業のことです。

スマート農業の推進は、本県農業が抱える労働力不足や、農業後継者への技術継承等の課題を解決するためにも有効な施策であることから、「鹿児島県スマート農業推進方針」に基づき、農業者の理解促進や現地実証活動等を展開しています。

また、令和4年4月に県農業開発総合センター内に「スマート農業拠点施設」を整備し、ロボット田植機等の実演会を開催するなど、スマート農業の推進母体として稼働しています。



スマート農業拠点施設でのロボット田植機等実演会

〈農業技術の開発等〉

農業開発総合センターでは、新品種・種畜及び新技術の開発・普及に取り組んでいます。

最近の成果では、年内に出荷できる果皮の紅色が濃いかんきつ「KC-5」や高温登熟性に優れる普通期栽培用水稲「あきの舞」等の新品種を育成しました。

新技術として、サツマイモ基腐病に抵抗性の強い品種「こないしん」「みちしずく」「べにまさり」の選定や効果的な薬剤防除体系を開発するなど、生産の安定化に寄与しています。

また、堆肥の活用による化学肥料の低減や天敵類活用技術による化学農薬の低減に関する新技術等についても取り組んでいます。

肉用牛改良研究所では、ゲノミック評価等の先端技術を駆使して肉用牛改良を促進し、検定・選抜を行いながら、産肉能力や生産性に優れた種畜を生産し、県内の肉用牛農家に凍結精液を供給しています。

これまで、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会で優等賞1席（農林水産大臣賞）を獲得した「白浜喜」号や、産肉能力が高い「益華明」号などが造成されています。

〈動植物の防疫体制〉

本県は、農作物に甚大な被害を与えるミカンコミバエやアリモドキゾウムシなどの病害虫が侵入・発生しやすい地理的条件にあることから、国や関係機関・団体等と連携しながら、定期的なトラップ調査等による侵入防止対策を講じるとともに、万一、侵入を確認した場合には、まん延防止に向けた防除対策を実施しています。



「KC-5」



「あきの舞」



「益華明（ますはなあき）」号



ミカンコミバエ

国内において豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、近隣諸国においてアフリカ豚熱等の家畜伝染病が続発し、本県においても令和2年度から令和5年度にかけ、4シーズン連続で高病原性鳥インフルエンザが発生しております。県では、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るとともに、万一の発生に備え、防疫資材の備蓄や防疫演習を実施するなど、疾病の発生やまん延防止対策の取組を推進しています。



防疫演習

豚熱ワクチン接種の取組

豚熱については、令和5年8月末に佐賀県の豚飼養農場で発生したことを受けて、9月5日には、本県を含む九州7県が、国からワクチン接種推奨地域に設定され、飼養衛生管理者向けの研修会の開催等、ワクチン接種体制の整備を進め、9月27日から南九州3県でワクチン接種を開始し、12月25日に初回接種を完了しました。

県としては、豚飼養農場へのウイルスの侵入を防止するためには、ワクチンの接種と併せて、消毒の徹底など飼養衛生管理基準の遵守が重要であると考えており、引き続き指導を徹底します。



豚熱ワクチンの接種

サツマイモ基腐病対策の取組

県では、県サツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム（PT）を設置（R4.1）し、「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」に基づき、関係機関・団体一体となって、「ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策の総合的な取組を推進しています。

県PTでは、健全苗確保に向けた研修会や、生産者の取組事例、試験研究成果等を紹介する県域研修会の開催等を通じ、対策を推進しています。

また、時期に応じた対策技術の情報発信に取り組んでいます。

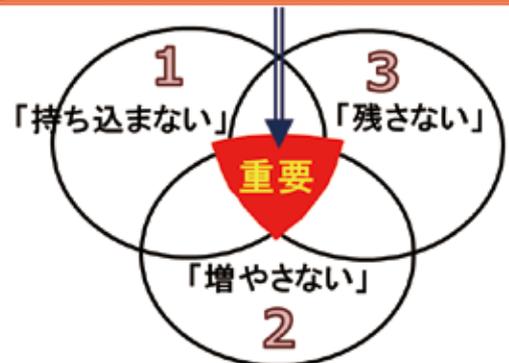
地域PTでは、抵抗性品種や新農薬の展示実証ほを活用した研修会の開催や個別巡回指導等による防除技術の周知に取り組んでいます。

農業開発総合センターでは、国との共同研究等により、蒸熱消毒技術の実証や、抵抗性品種の開発、農薬登録促進のための薬剤効果試験などに取り組んでいます。



基腐病対策研修会（ほ場滞水防止対策の実演）

3つの対策を総合的に取り組むことが必要



6 農村振興

〈共生・協働の農村づくり運動〉

「人と自然と地域が支え合うみんなで創る農村社会」を目指して、地域住民の自主的な話し合い活動を基本に、農村集落と大学やNPOなど地域外の多様な主体との連携による「共生・協働の農村づくり運動」を進めています。

令和4年度 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰
知事賞受賞団体

部門	受賞者名
農村集落部門	高隈地区コミュニティ協議会(鹿屋市)
功労者部門	今村 満義 氏(さつま町)

令和5年度豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞 高隈地区コミュニティ協議会(鹿屋市)

高隈地区コミュニティ協議会では、世代を問わず、多くの人を巻き込みながら、地域の課題を共助という形で解決するため、様々な活動に取り組んでいます。

休耕田を活用し、「たかくまコミュニティ米(高隈米)」を生産することで、自主財源を確保しています。

また、有志により、有償ボランティア組織「おたすけ隊『あったかくマン』」を創設し、大工仕事や庭仕事、買い物支援等、住民の困りごとを支援するなど、持続的なむらづくり活動を展開しています。



休耕田を活用した高隈米の生産(稲刈り)

〈農業農村が有する多面的機能の維持・発揮〉

国土の保全や良好な景観の形成など、農業農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域共同で行う多面的機能を支える活動や農用地・水路・農道等の地域資源の質的向上を図る活動を支援しています。



水路の泥上げ

〈グリーン・ツーリズム、農泊の推進〉

本県の豊かな農産物や食、伝統文化、自然などを生かして、農産物直売所等を活用した都市住民との交流や、農作業等を体験する修学旅行の受入れ、農山漁村に宿泊し、地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農泊」など、グリーン・ツーリズムの取組を推進しています。



農作業体験をする修学旅行生

7 農業災害防止等

〈農業災害対策の推進〉

本県では、台風や大雨等により、毎年、農作物やハウス等の農業施設などに被害が発生しています。

災害の発生が懸念される場合は、農業者に事前に対策を周知するなど、被害の発生や拡大を防止しています。

災害が発生した際は、相談窓口を設置するなどして、技術指導や復旧資金に関する相談等の対応を行っています。



大雨により損壊したハウス

また、シラスなどの特殊土壌に覆われているため、台風や豪雨による災害を受けやすい条件下にあります。

このため、農地の侵食や崩壊を未然に防止するための排水路整備など、農村地域の防災・減災対策を行っています。



〈整備前〉



〈整備後〉

〈活動火山防災営農対策の推進〉

桜島などの活動火山を有する本県では、降灰による農作物被害を防止・軽減し、地域農業の発展を図るため、被覆施設や洗浄施設の整備等を行う農業者団体等を支援しています。



茶の除灰機



被覆施設

〈鳥獣被害防止対策の推進〉

市町村等と連携しながら、「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を柱に、集落ぐるみの被害防止研修会の開催や侵入防止柵の整備、捕獲活動に必要な経費の支援などソフト、ハード両面にわたる総合的かつ一体的な対策を強化しています。

また、捕獲した鳥獣のジビエ利活用拡大に向けた取組を推進しています。



侵入防止柵の整備



集落ぐるみの被害防止研修会

8 食育及び地産地消

〈食育〉

本県ならではの豊かな食文化や農林水産業を生かして、かごしま版食事バランスガイドの普及啓発や、郷土料理等の継承推進、農業体験等の取組への支援など、ライフステージに合わせた、県民の健康で豊かな食生活の実現を図っています。

また、令和4年度に県、県教育委員会及びJAグループ鹿児島との3者で締結した「食育に係る連携協定」を契機に、子どもたちに対する体験活動を通じた食育の取組をさらに充実・強化するため、食育支援体制の拡充や食育に携わる指導者等を対象に「食と農の指導者研修」を実施しています。



市町村等の取組支援
(小学校での農業体験)



食育支援体制の紹介チラシ



食と農の指導者研修

(左：ワークショップ 右：農業体験を通じた生産者との交流)

〈地産地消〉

本県農林水産物を積極的に活用している飲食店・量販店等を登録する「かごしま地産地消推進店」や、地産地消の情報発信役である「地産地消推進サポーター」への情報発信等を通じて、県産農林水産物への理解促進を図っています。

かごしま国体で「かごしま→地産地消推進店」をPR



←Instagramで「かごしまの食」をPR

若い世代への県産食材の理解促進～かごしまおいしいものフェア～



高校生等を対象に、県産食材活用メニューコンテスト「かごしまおいしいもの選手権」を実施し、応募総数301作品から書類審査を経て入賞作品17作品を選定。

高校生と飲食店等とのマッチング交流会を実施するなど入賞作品の商品化を進め、県内の飲食店等が商品化・販売PRする「かごしまおいしいものフェア」の開催やSNS等での発信など、若い世代をはじめとする幅広い県民への理解促進に取り組んでいます。



入賞作品の商品化に向けた高校生と飲食店とのマッチング交流会



コンテスト入賞作品を商品化・販売PRする「かごしまおいしいものフェア」(左：商品化例、右：フェアチラシ)



フェア初日に開催したキックオフイベント

II 本県の地理

1 位置

本県は、我が国の西南部、九州の南端に位置し、東西約270km、南北約600kmに広がり、総面積は9,186km²です。薩摩、大隅の二大半島からなる県本土と、甌島、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島など200有余の島々からなっています。

2 地勢

本県は、薩摩、大隅の二大半島から主要部分をなし、この二大半島は相対して深く湾入りした鹿児島湾を抱き、海岸の屈曲が多く、加えて200有余の島々からなるため海岸線は2,643kmに及んでいます。

薩摩半島にあつては、紫尾山系が県の北部を東西に走り、大隅半島にあつては、高隈山系が鹿児島湾に沿って、国見山系が太平洋に沿ってそれぞれ南北に走り、これらの山系と霧島火山脈の活動によって生じた火山群を骨格にし、その周辺に火山噴火物であるシラス層の丘陵台地が広がっています。

河川は、県の北部には、源を熊本県白髪山に発し、東シナ海に流入する川内川、鹿児島湾に流入する天降川、南部には東シナ海に注ぐ万之瀬川、大隅方面には志布志（有明）湾に注ぐ菱田川等がありますが、川内川（延長137km）を除けばいずれもそのほとんどが50km未満の短い河川です。

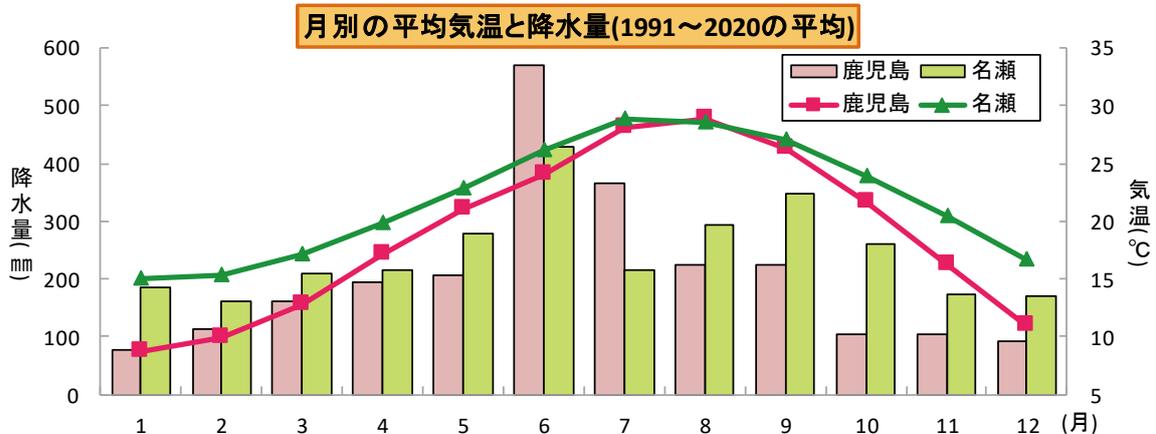
したがって、平野はこれらの河口付近にややまとまって見られるほかは、河川に沿って数珠状に細長く分布しています。

3 気象

本県は、温帯気候帯から亜熱帯気候帯まで広範囲に及んでおり、年平均気温は15℃から23℃まで、かなりの温度差があります。

降水量は地域によって相当の差があり、屋久島の山岳地帯では年間10,000mmを記録することも珍しくありませんが、概ね2,000mmから3,000mmの降雨地帯にあり、梅雨期から夏にかけて全降水量の約半分が集中しています。

夏秋期には、毎年のように暴風雨を伴う台風に見舞われ、また、夏期には干ばつ害を受けることもしばしばあります。



地点	年平均気温	年平均降水量	地点	梅雨入り	梅雨明け
鹿児島	18.8℃	2,435mm	九州南部	5月30日ごろ	7月15日ごろ
名瀬	21.8℃	2,936mm	奄美地方	5月12日ごろ	6月29日ごろ

資料：気象庁「平年値（統計期間1991~2020年）」

Ⅲ 農業の概要

1 概要

農業は、本県の地域経済を支える基幹産業であり、令和4年における農業産出額は、全国第2位の5,114億円となっています。

特に、全国上位の飼養頭数を誇る豚や肉用牛（黒毛和種）を中心とした畜産は、農業産出額の68%を占めています。また、南北600kmにわたる県土の中で、温暖な気候や全国第2位の広大な畑地などを生かした野菜や花き、茶などの生産も盛んです。

本県では、さらなる農業の発展のために、畑地かんがい農業などの農業生産基盤の整備や各種の生産対策を積極的に推進しています。

(1) 全国における本県農業の状況

区	分	実	数	全国に占める割合	全国における合地	九州における地位	資料
農業経営体数		29,717	経営体	2.8%	12位	2位	農林水産省 「2020年農林業センサス」(確定値) (R2.2.1)
個人経営体数		28,276	経営体	2.7%	12位	2位	
	主業	8,781	経営体	3.8%	6位	2位	
基幹的農業従事者数		37,580	人	2.8%	16位	3位	
団体経営体数		1,441	経営体	3.8%	3位	1位	
1経営体当たり経営耕地面積		2.4	ha	全国 3.1 ha	14位	2位	
耕地面積		110,700	ha	2.6%	12位	1位	農林水産省 「耕地及び作付面積統計」 (R5.10.31)
	田	33,600	ha	1.4%	29位	6位	
	畑	77,100	ha	3.9%	2位	1位	
	普通畑	61,900	ha	5.5%	2位	1位	
	樹園地	12,200	ha	4.8%	7位	2位	
	牧草地	2,960	ha	0.5%	10位	2位	
	畑地率	69.6%		全国 45.7%	6位	1位	
農業産出額		5,114	億円	5.7%	2位	1位	農林水産省 「生産農業所得統計」 (R5.12.22)
生産農業所得		1,493	億円	4.7%	3位	1位	
生産農業所得率		29.2%		-	46位	7位	
食料自給率		79%		全国 38%	8位	2位	農林水産省 (令和4年度概算値)

※「九州における地位」に沖縄県は含まない。

(2) 農業産出額

令和4年の農業産出額は、5,114億円（全国第2位）で、前年に比べて2.3%増加しています。部門別にみると、畜産が4.3%増加し、耕種が1.3%、加工農産物が8.0%減少しています。

また、部門別の構成比は、耕種30.5%、畜産67.9%、加工農産物1.6%となっています。

部門別農業産出額

区 分	産出額(億円)		構成比(%)		前年比(%)
	R4	R3	R4	R3	R4/R3
合 計	5,114	4,997	100.0	100.0	102.3
耕 種	1,560	1,580	30.5	31.6	98.7
米	169	176	3.3	3.5	96.0
麦 類	0	x	-	-	-
雑 穀・豆 類	3	3	0.1	0.1	100.0
い も 類	305	301	6.0	6.0	101.3
野 菜	531	545	10.4	10.9	97.4
果 実	112	105	2.2	2.1	106.7
花 き	125	118	2.4	2.4	105.9
工 芸 農 作 物	297	305	5.8	6.1	97.4
そ の 他	18	x	0.4	-	-
畜 産	3,473	3,329	67.9	66.6	104.3
肉 用 牛	1,228	1,240	24.0	24.8	99.0
乳 用 牛	98	103	1.9	2.1	95.1
豚	909	900	17.8	18.0	101.0
鶏	1,237	1,084	24.2	21.7	114.1
鶏 卵	316	316	6.2	6.3	100.0
ブロイラー	889	736	17.4	14.7	120.8
そ の 他	2	2	0.0	0.0	100.0
加 工 農 産 物	81	88	1.6	1.8	92.0

x:集計結果をそのまま公表すると、個々の報告者の秘密が漏れるおそれがあるため秘匿とした箇所

資料:生産農業所得統計

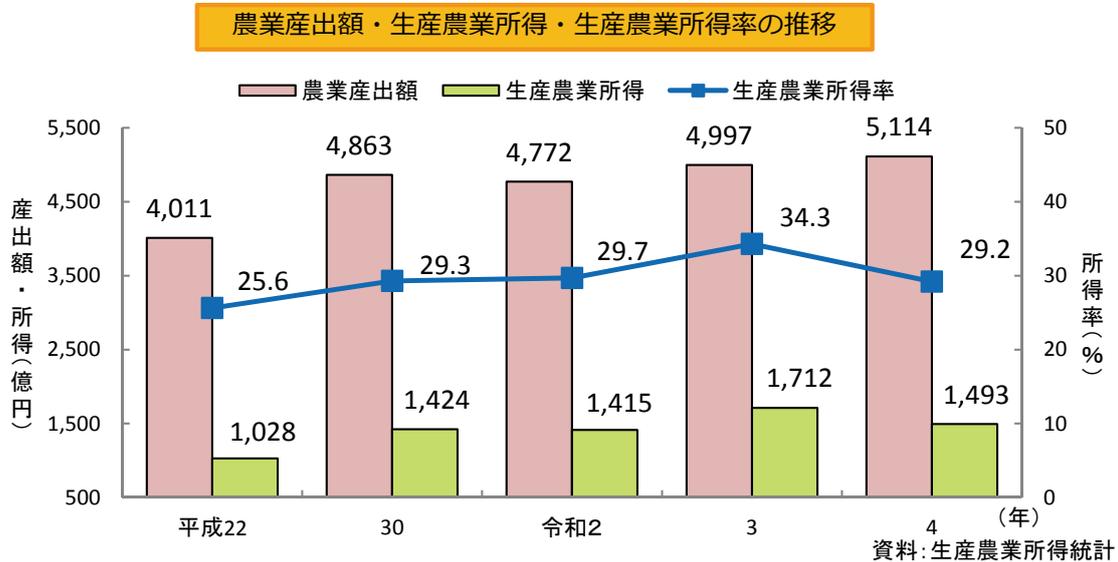
上位10品目(令和4年)

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
品目	肉用牛	豚	ブロイラー	鶏卵	米	かんしょ	菜(生菜)	ばれいしょ	さとうきび	生乳
産出額(億円)	1,228	909	889	316	169	164	154	141	128	88
構成比(%)	24.0	17.8	17.4	6.2	3.3	3.2	3.0	2.8	2.5	1.7

資料:生産農業所得統計

(3) 生産農業所得

令和4年の生産農業所得は1,493億円で、前年に比べて12.8%減少しています。また、生産農業所得率は、29.2%で、前年に比べて5.1%減少しています。



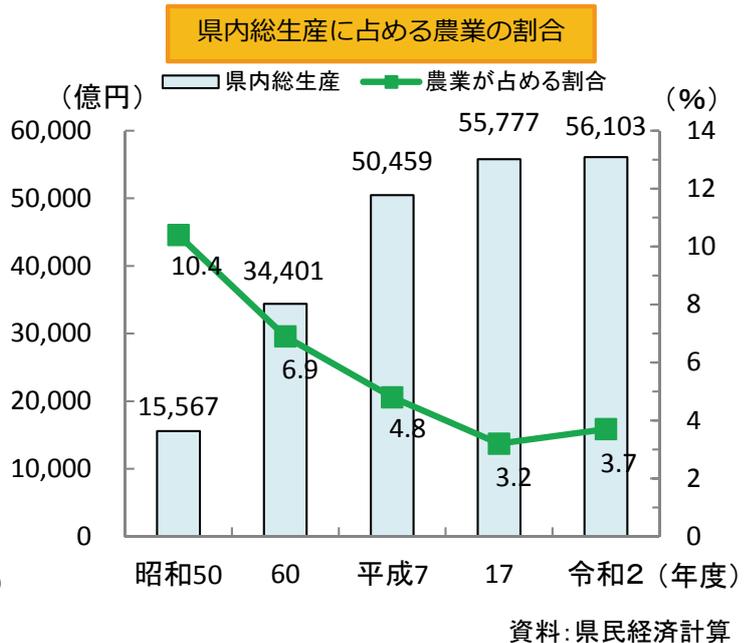
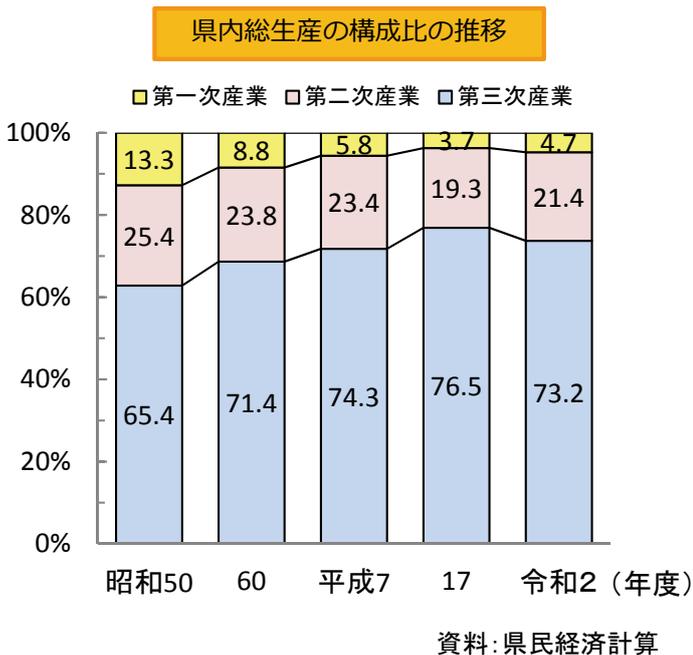
(4) 県内経済における農業の地位

① 県内経済の状況

令和2年度の県内総生産額は5兆6,103億円となっています。産業別にみると、第一次産業が4.7%、第二次産業が21.4%、第三次産業が73.2%となっています。

② 県内総生産に占める農業の割合

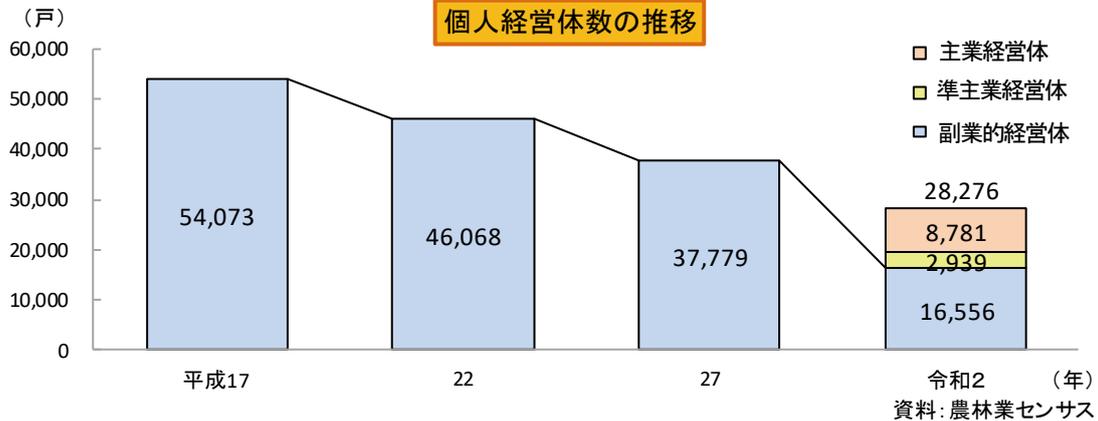
令和2年度の県内総生産額のうち、農業の生産額は2,092億円で、全体の3.7%を占めています。



2 農業者

(1) 個人経営体数

令和2年の個人経営体数は28,276戸で、平成27年に比べて25.2%減少しています。個人経営体のうち主業経営体は8,781戸（31.1%）、準主業経営体は2,939戸（10.4%）、副業的経営体は16,556戸（58.6%）となっており、全国（22.3%）に比べ主業経営体の割合が高くなっています。

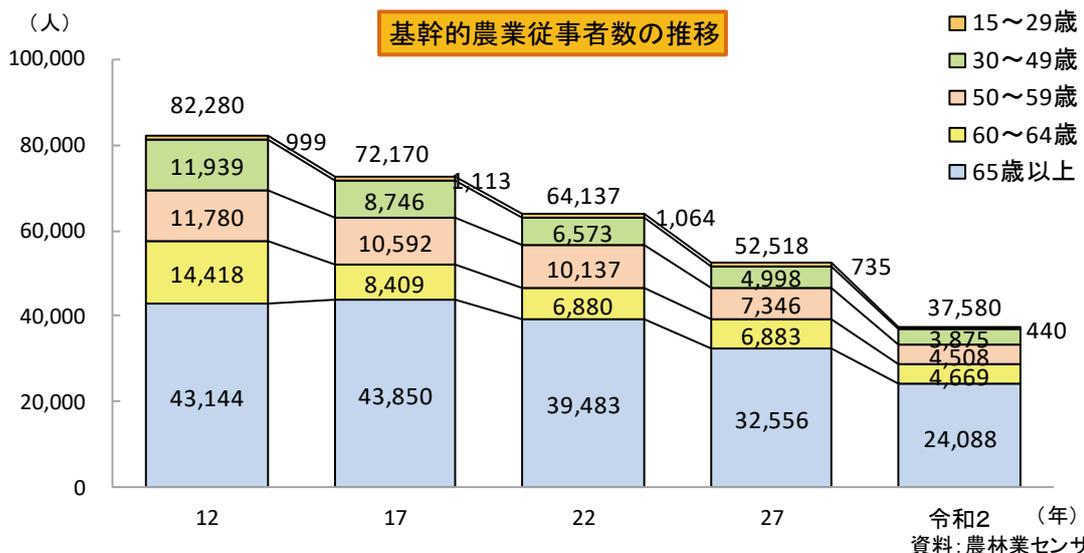


- ※「個人経営体」とは、農業経営体（経営耕地面積が30a以上又は1年間における農業生産物の総販売額が50万円に相当する事業の規模等を満たす経営体）のうち、一世帯で事業を行っている経営体（法人化している経営体（一戸一法人）を除く。）をいいます。
- ※「主業経営体」とは、農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。
- ※「準主業経営体」とは、農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。
- ※「副業的経営体」とは、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体及び準主業経営体以外の個人経営体をいいます。

(2) 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者は、令和2年2月1日現在、37,580人で、平成27年に比べて28.4%の減少となっています。

このうち、65歳以上の数は24,088人で、全体の64.1%を占めており、60歳以上になると76.5%を占めています。



- ※「基幹的農業従事者」とは、農業就業人口（自営農業に主として従事した世帯員）のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいいます。
- ※平成27年までは販売農家の基幹的農業従事者数、令和2年は個人経営体の農業従事者数

(3) 担い手

担い手（認定農業者（法人を含む）、認定新規就農者、集落営農経営等の今後の地域農業を担う者）は、10,567（令和4年度）であり、概ね10,000を維持しています。

担い手の確保数の推移

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
担い手	11,101	11,093	10,567
○認定農業者 ※1	7,866	7,644	7,588
うち個人	6,613	6,379	6,283
うち法人	1,253	1,265	1,305
○認定新規就農者 ※2	532	511	537
○集落営農経営 ※3	31	30	25
○基本構想水準到達者 ※4	2,672	2,908	2,417

資料: 県経営技術課調べ

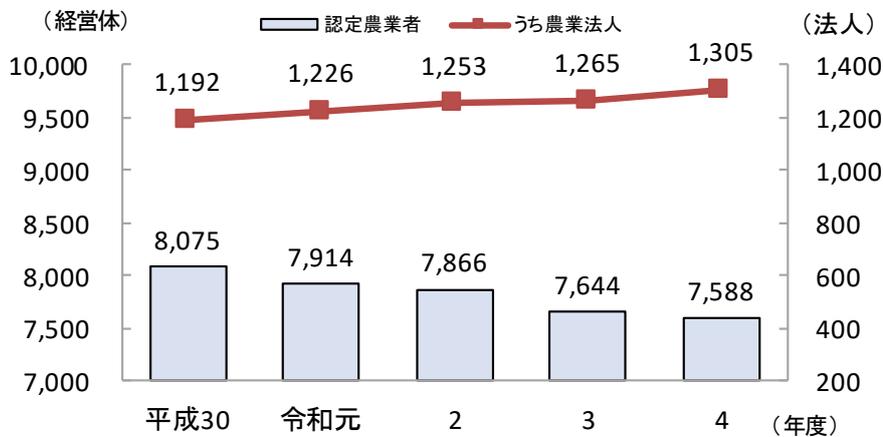
- ※1 認定農業者：市町村等から経営改善計画の認定を受けた経営体（県・国の広域認定分を含む）
- ※2 認定新規就農者：市町村から青年等就農計画の認定を受けた者（令和3年度までは人数（夫婦共同申請の場合は2カウント）、令和4年度からは経営体数）
- ※3 集落営農経営：集落営農組織（複数の農業者により構成され、規約を定め、対象作物の生産・販売について共同販売経理を行う農作業受託組織）等
- ※4 基本構想水準到達者：認定農業者の再認定を受けなかったものの、従前の経営面積を維持又は拡大している経営体等

① 認定農業者（法人を含む）

個人の認定農業者は高齢化等により減少傾向にありますが、法人である認定農業者は1,305法人で、平成30年度に比べて9%増加しています。

認定農業者を営農類型別にみると、肉用牛1,660経営体（22%）、野菜1,346経営体（18%）、茶715経営体（9%）（令和5年3月末現在）となっています。

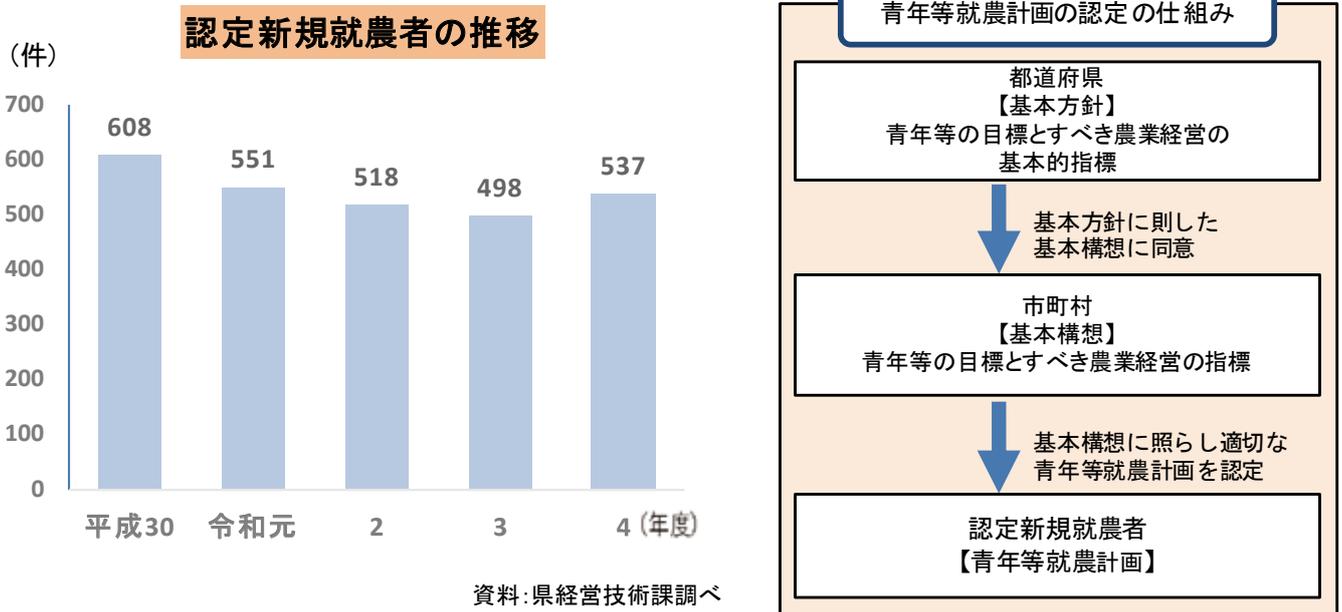
認定農業者の推移



資料: 県経営技術課調べ

② 認定新規就農者

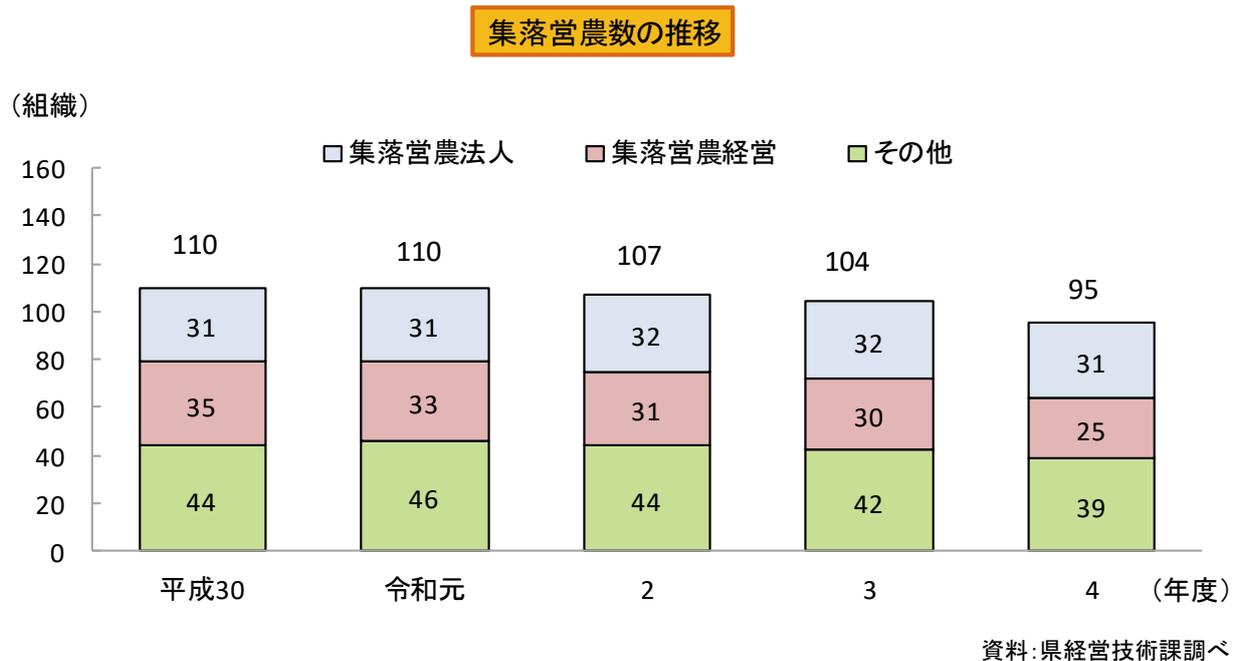
青年等就農計画を市町村が認定し、就農段階から農業経営の改善・発展段階まで、一貫した支援の対象となる認定新規就農者は、令和4年度は537件となっています。



③ 集落営農

地縁的なまとまりを単位として、話し合い活動に基づき、機械・施設の共同利用や農作業受託等の生産活動を行う集落営農は、高齢化等による農作業受託組合の解散などにより、令和4年度は95組織と減少傾向にあります。

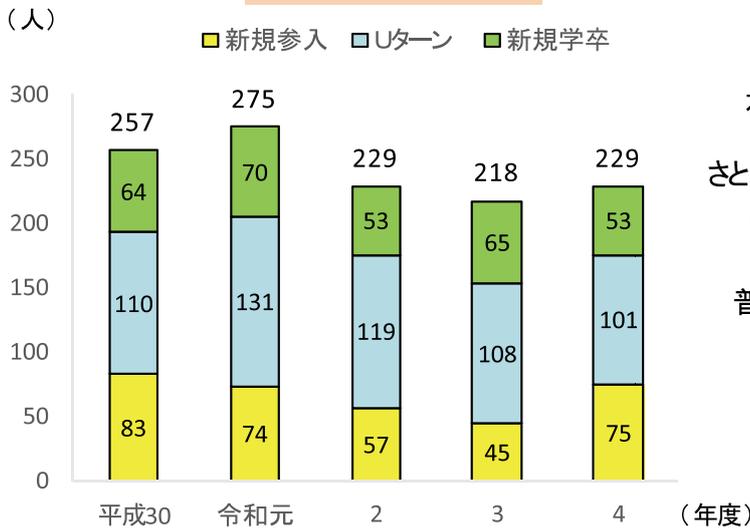
このうち、集落営農の中で規約を定め、共同で生産・販売経営等を行っている集落営農経営が25組織、さらに持続的な営農を可能とするため法人化まで行っている集落営農が31法人となっています。



(4) 新規就農者

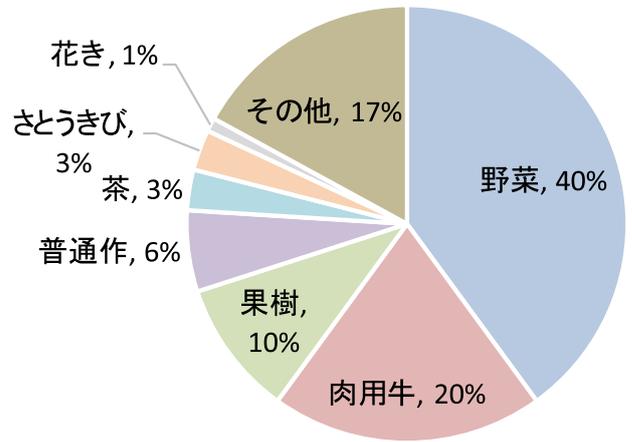
令和4年度の新規就農者は、229人となっています。
作目別では、野菜が最も多く、次いで、肉用牛、果樹の順になっています。

新規就農者の推移



資料: 県経営技術課調べ

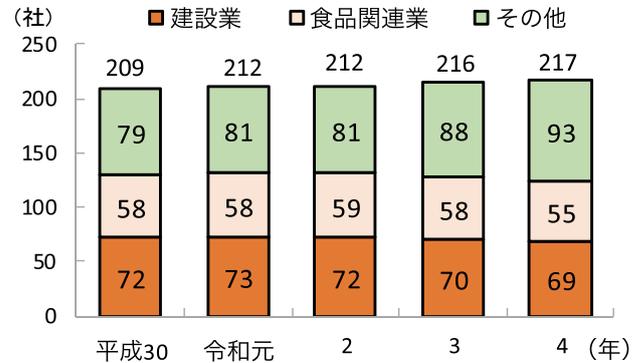
新規就農者が取り組む品目(R4)



資料: 県経営技術課調べ

(5) 企業等の農業参入

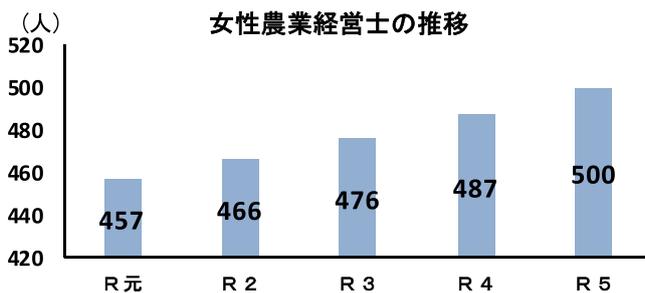
農業参入した企業等数は年々増加傾向にあり、令和4年12月末時点では、前年に比べて1社増加の217社となっています。
業種別には、建設業、食品関連業が多い状況です。



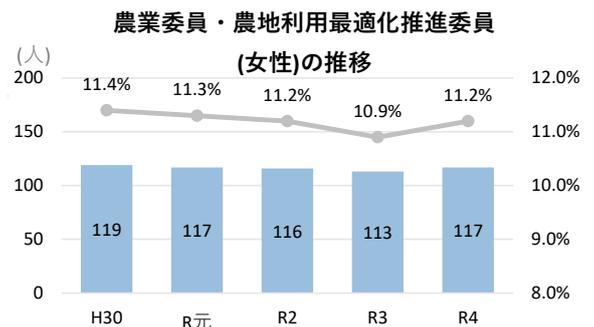
資料: 県経営技術課調べ

(6) 女性農業者

令和5年度の女性農業経営士の認定者数は500人となっています。
また、農業委員・農地利用最適化推進委員に占める女性の割合は11.2%となっています。



資料: 県経営技術課調べ



資料: 農村振興課調べ

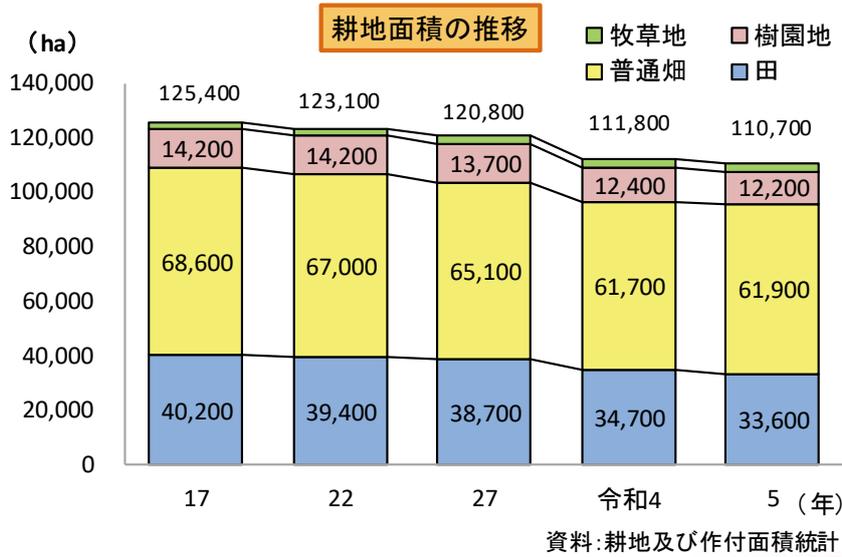
3 農用地

(1) 耕地面積

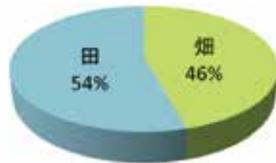
令和5年の耕地面積は110,700haで、うち田は、33,600ha、畑は、77,100haとなっています。

畑地率は、69.6%で、全国の畑地率45.7%に比べて、極めて高くなっています。

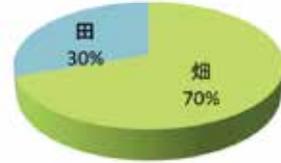
畑は、普通畑61,900ha（畑全体に占める割合80.3%）、樹園地12,200ha（同15.8%）、牧草地2,960ha（同3.8%）です。



全国
耕地面積
4,297,000ha



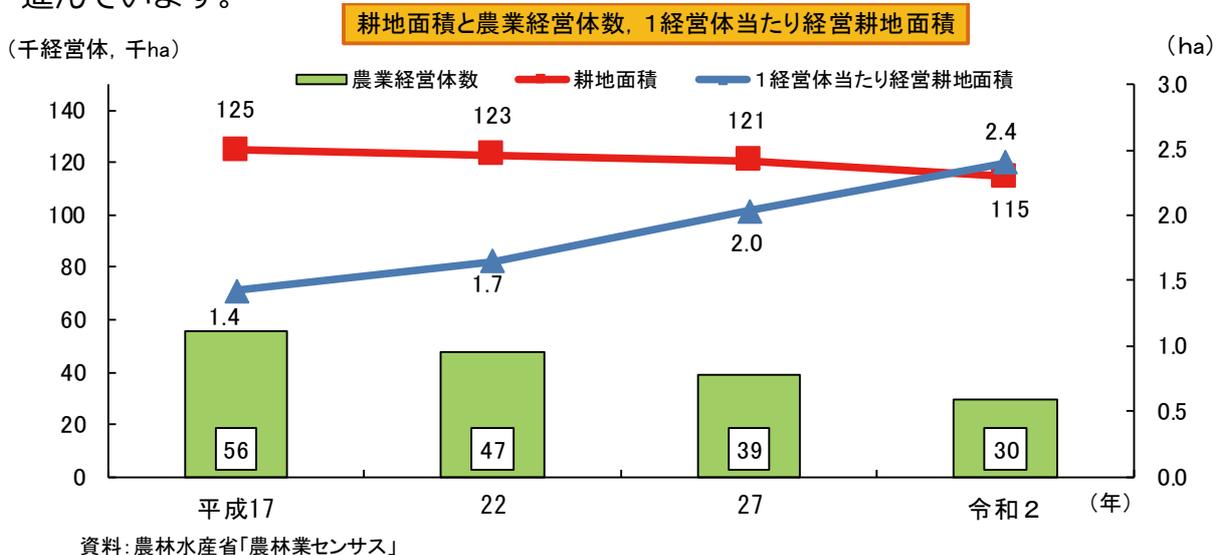
鹿児島
耕地面積
110,700ha



資料: 耕地及び作付面積統計

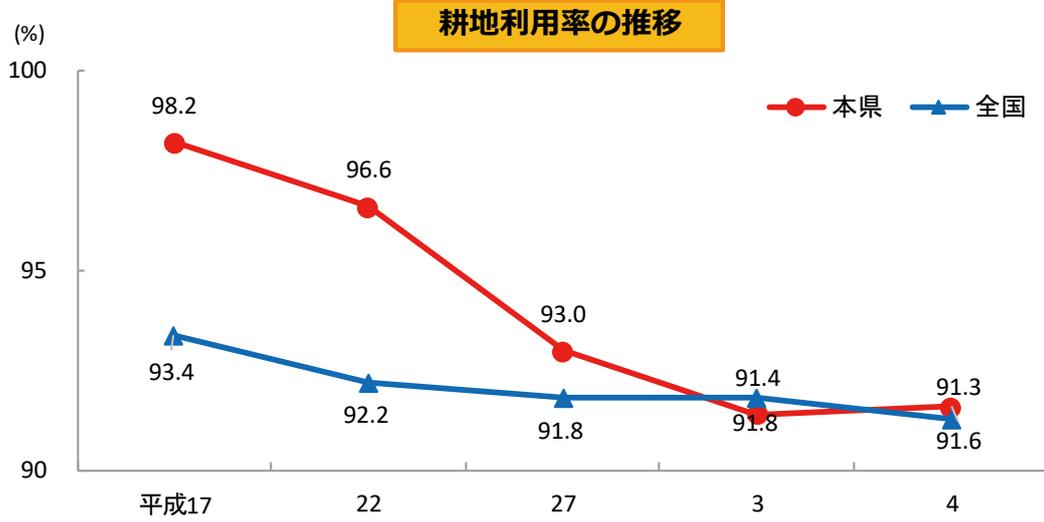
(2) 農業経営体数と1経営体当たり経営耕地面積

令和2年の農業経営体数は29,717戸、1経営体当たり経営耕地面積は2.4haとなっており、農業経営体数が減少する一方で、農地集積により、農業経営の規模の拡大が進んでいます。



(3) 耕地利用率

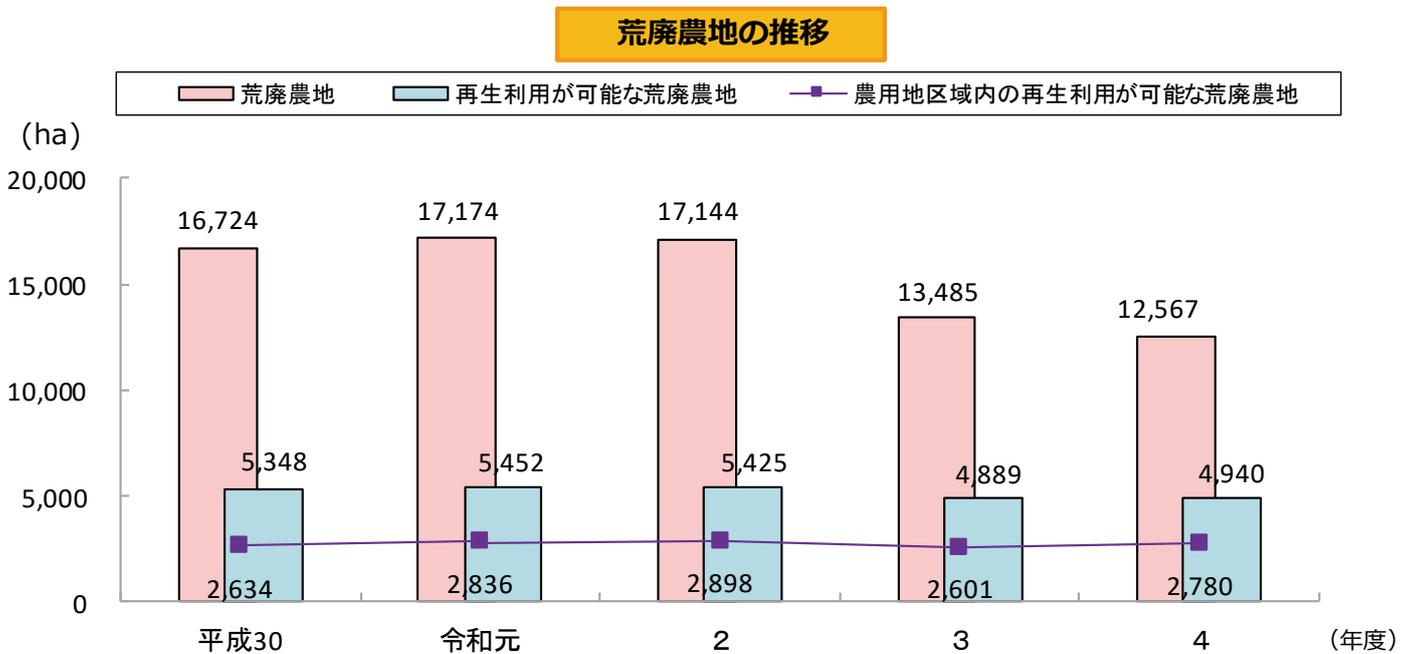
令和4年の耕地利用率は91.6%であり、全国の耕地利用率91.3%より高くなっています。



資料: 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(4) 荒廃農地

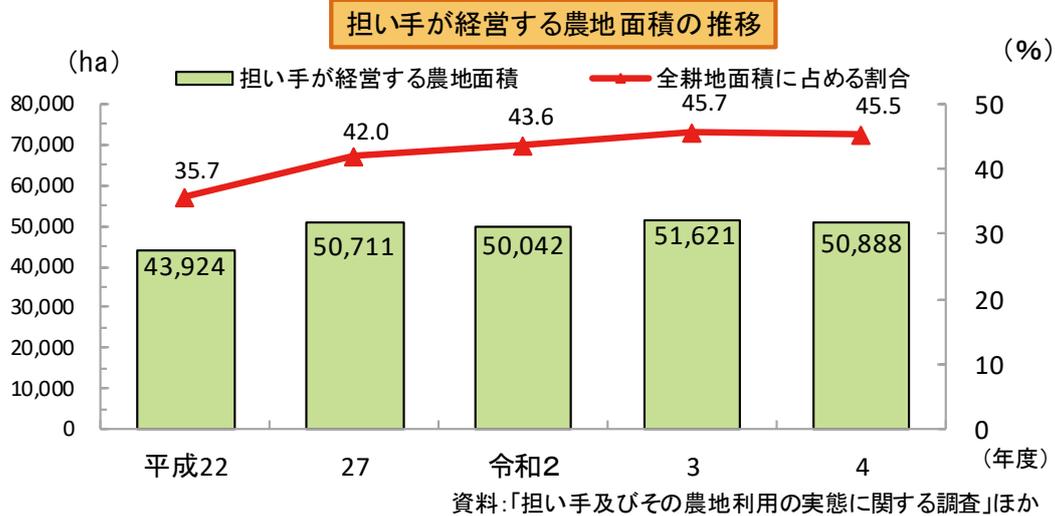
令和4年度末の荒廃農地面積は12,567haで、直近5年間では減少傾向にあります。また、再生利用が可能な面積は4,940haで、このうち農業振興地域の農用地区域内の面積は2,780haとなっています。



資料: 「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」, 「遊休農地に関する措置の状況に関する調査」

(5) 農地流動化

令和4年度末の担い手が経営する農地面積は、50,888haとなっており、全耕地面積に占める割合は45.5%で、平成22年度から9.8ポイント増加しています。



注：担い手とは、①認定農業者（特定農業法人を含む）、②市町村基本構想の水準到達者、③特定農業団体、④集落営農組織（複数の農業者により構成される農作業受託組織であり、対象作物の生産・販売について共同販売経理を行っている組織）、⑤認定新規就農者（H26～）をいう。

(6) 農業農村整備

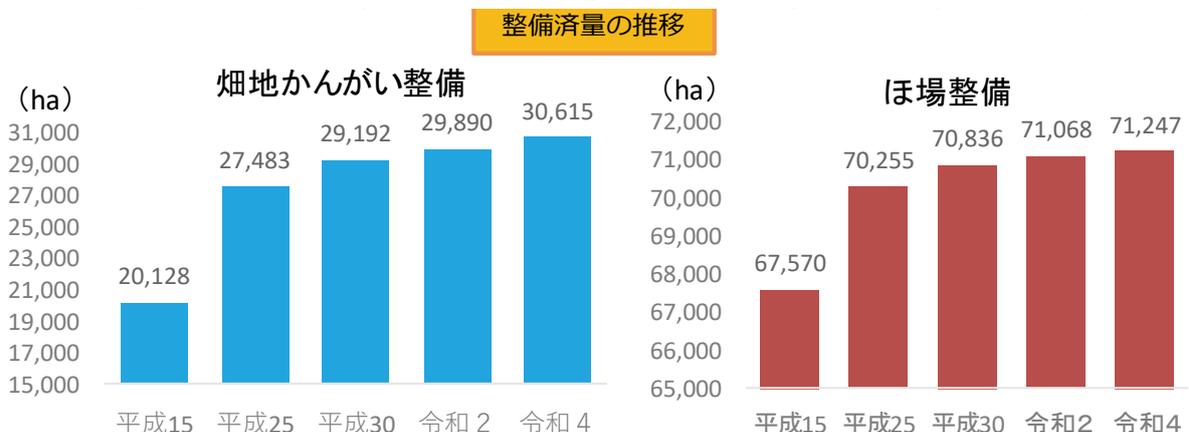
令和4年度末現在の整備率は、水田と畑を合わせた全体のほ場整備率68.8%、畑地かんがいは54.6%となっており、これらの生産基盤の整備を推進しています。

また、豪雨や地震等に対する防災・減災対策をはじめ、農業用施設の長寿命化対策や農村の生活環境の向上対策として、各種事業を積極的に推進しています。

農業農村整備事業の整備状況（令和4年度末現在）

項目	畑地かんがい	ほ場整備	水田		畑
			うち大区画		
整備目標量 (ha)	56,100	103,500	32,700	7,800	70,800
整備済量 (ha)	30,615	71,247	26,436	1,555	44,818
整備率 (%)	54.6	68.8	80.8	19.9	63.3

資料：農業農村整備事業における市町村別整備水準(R5.3.31)調査結果



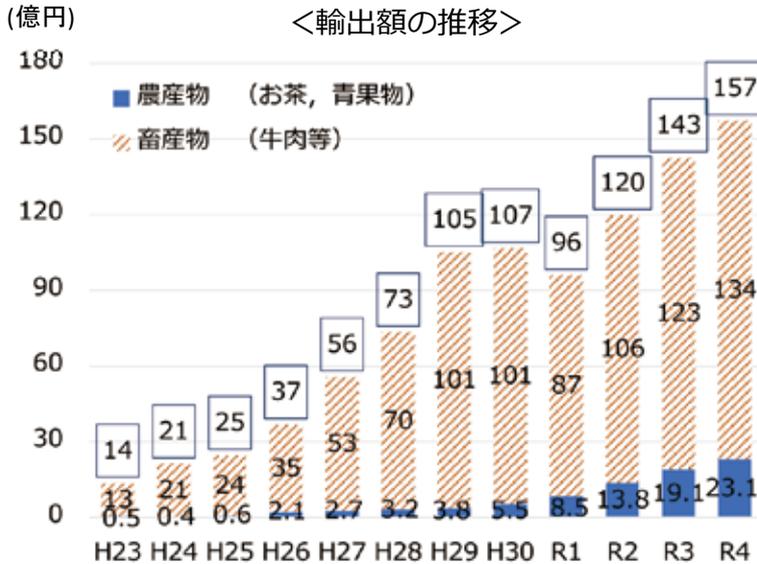
資料：農業農村整備事業における市町村別整備水準（R5.3.31）調査結果

4 流通・販売

(1) 農畜産物の輸出

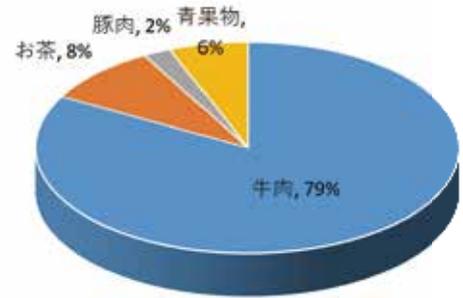
令和4年度の県産農畜産物の輸出額は約157億円で、その大部分を牛肉が占めており、香港や米国、台湾などに輸出されているほか、お茶は米国などに、また、さつまいもやきんかんなどの青果物はシンガポールや香港、台湾などに輸出されています。

本県の農畜産物の輸出額

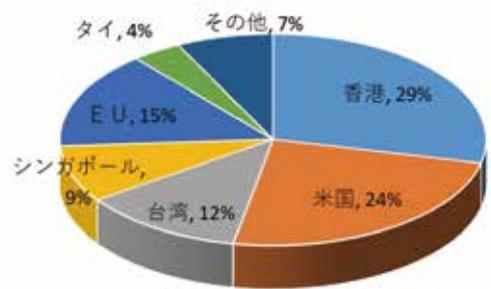


(注) 県産農畜産物の輸出を行っている団体等への聞き取り調査等を行い、回答があったものについて取りまとめたものであり、県産農畜産物の全ての輸出額ではない。

〈品目別の輸出額の割合 (令和4年度)〉



〈国・地域別の輸出額の割合(令和4年度)〉



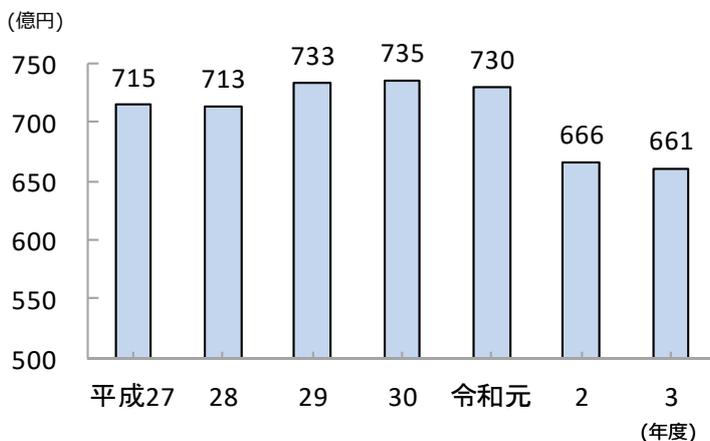
資料：鹿児島県調べ

(2) 6次産業化の市場規模

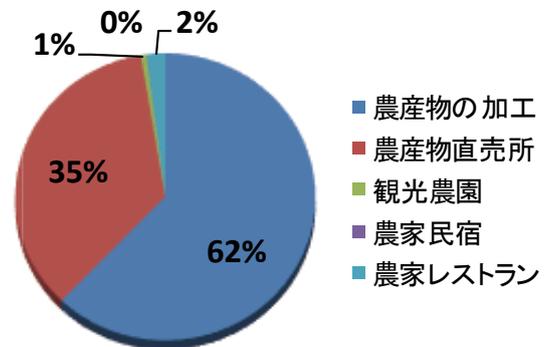
令和3年度の農業生産関連事業の年間総販売金額は661億円で、そのうち農産物の加工が約6割を占めています。

本県の6次産業化の市場規模

〈農業生産関連事業の年間総販売金額〉



〈業態別内訳〉



資料：農林水産省「6次産業化総合調査」

(3) 食品製造業の出荷額

本県の全製造業に占める食品製造業の出荷額の割合は、令和3年は約43%と全国平均の約4倍であり、全国でも高い占有率となっています。事業所数や従業員数も全製造業の40%を超えており、農業振興への貢献とともに、地域に貴重な雇用機会を提供しています。

また、さつまいも等地域資源を活用した様々な加工食品が生産されています。

全製造業に占める食品製造業の割合(令和3年)

区分	食品製造業 (A)	全製造業 (B)	A/B (%)
事業所(箇所)	1,086	2,531	42.9%
従業員(人)	29,216	72,571	40.3%
本県出荷額等(億円)	8,838	22,067	40.1%
全国出荷額等(億円)	381,615	3,302,200	11.0%

主要製造品の製造品出荷額等(令和3年)

順位	製造品名	出荷額等 (億円)	構成比 (%)
1	配合飼料	2,802	12.7
2	部分肉・冷凍肉	2,334	10.6
3	抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品	1,907	8.6
4	電気用陶磁器	1,868	8.5
5	その他の畜産食料品	1,444	6.5

資料：2022年経済構造実態調査

(4) かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)

安心・安全な県産農林水産物を生産し、消費者からの信頼を確保するため、平成16年度に本県が創設した「かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)」の普及・拡大に取り組んでいます。

令和6年1月末現在の認証数は66品目、247団体・個人、294件となっています。

K-GAPの認証状況

区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
品目数	64	63	63	66	66
団体等数	270	272	260	262	247
件数	317	320	305	311	294
戸数	8,627	7,862	7,488	7,393	7,043

資料：県農政課かごしまの食輸出・ブランド戦略室(令和6年1月末時点)

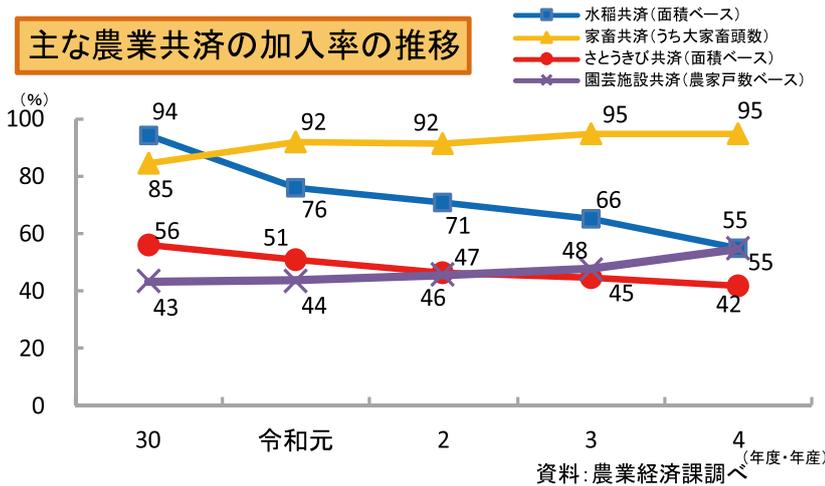
5 農業災害

(1) 農業保険（農業共済，収入保険）

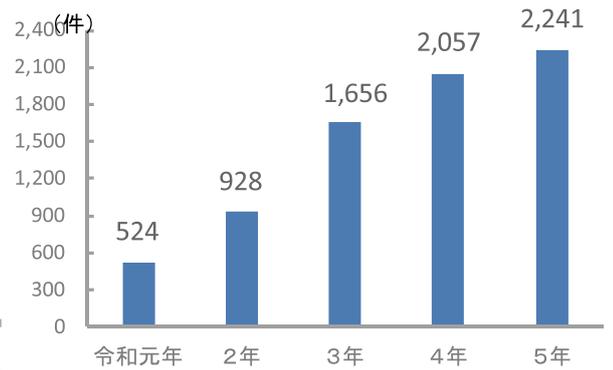
農業共済は，自然災害等によって受ける損失を補償する制度で，家畜共済（うち大家畜）は高い加入率で推移し，園芸施設共済は，加入率が上昇傾向にあります。

収入保険は，収入減少や価格低下などの様々なリスクによる収入減少を補償しており，農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体が対象です（肉用牛，豚肉，鶏卵を除く）。収入保険への加入件数は，年々増加傾向にあります。

主な農業共済の加入率の推移



収入保険への加入件数の推移



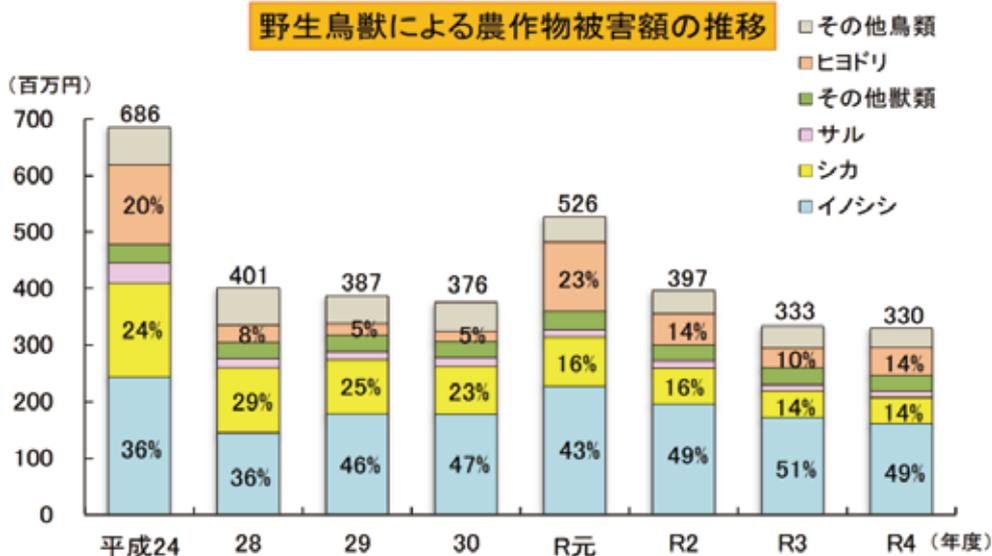
(注1) 水稲共済は，令和元年度から当然加入制が廃止され任意加入制へ移行。
 (注2) 家畜共済（うち大家畜）の令和元年度加入率は，旧制度及び現制度のうち死亡廃用共済の引受頭数を基に算出。

(2) 鳥獣被害額

令和4年度の野生鳥獣による農作物被害額は，ヒヨドリ被害が増加したもののイノシシやシカによる被害が減少したことから，前年度に比べて1%減の約3億3千万円となりました。

被害額のうち，イノシシとヒヨドリ，シカによるものが全体の約8割を占めています。

野生鳥獣による農作物被害額の推移



(注) 平成24年度は，平成15年度以降で被害額が最も多かった年度

IV 品目別の生産動向

1 生産状況

品目別の生産状況は、さつまいも、そらまめ、さやえんどう、球根類、豚などが全国第1位、茶（荒茶）、かぼちゃ、肉用牛などが全国第2位、マンゴーなどが全国第3位となっています。



品目	収穫量・飼養頭数	全国に占める割合	全国における地位	九州における地位	資料
水稲	86,000 t	1.2 %	29 位	5 位	令和4年産作物統計
さつまいも	210,000 t	29.5 %	1 位	1 位	
さとうきび	534,100 t	42.0 %	2 位	1 位	
茶（荒茶）	26,700 t	34.6 %	2 位	1 位	
葉たばこ	484 t	5.5 %	7 位	4 位	全国たばこ耕作組合中央会 令和4年産
だいこん	90,400 t	7.7 %	4 位	1 位	令和4年産作物統計
ばれいしょ	97,600 t	4.3 %	2 位	1 位	
さといも	7,240 t	5.2 %	6 位	2 位	
かぼちゃ	6,890 t	3.8 %	2 位	1 位	
ピーマン	13,300 t	8.9 %	4 位	2 位	
さやいんげん	2,120 t	6.4 %	4 位	1 位	
さやえんどう	4,980 t	25.8 %	1 位	1 位	
そらまめ	3,230 t	24.5 %	1 位	1 位	令和2年産地域特産野菜 生産状況調査
オクラ	5,210 t	43.4 %	1 位	1 位	
みかん	9,700 t	1.4 %	15 位	6 位	令和4年産作物統計
びわ	189 t	7.5 %	3 位	2 位	令和3年産特産果樹 生産動態等調査
マンゴー	398 t	11.0 %	3 位	2 位	
切り花類	117,800 千本	3.8 %	8 位	2 位	令和4年産作物統計
球根類	16,600 千球	23.5 %	1 位	1 位	
肉用牛	357,800 頭	13.3 %	2 位	1 位	令和5年畜産統計
黒毛和種	341,200 頭	18.6 %	1 位	1 位	
乳用牛	12,800 頭	0.9 %	15 位	4 位	
豚	1,153,000 頭	12.9 %	1 位	1 位	
採卵鶏	11,582 千羽	6.8 %	3 位	1 位	
ブロイラー	31,285 千羽	22.1 %	1 位	1 位	

※茶（荒茶）、葉たばこは生産量、花きは出荷量

※「九州における地位」に沖縄県は含まない。

2 最近の情勢と今後の推進方向

(1) 米（多様なニーズに応える米づくり）

●最近の情勢（作付面積，収穫量）

- ① 令和5年産水稻（主食用，加工用，米粉用等）の作付面積は17,200haで，収穫量は83,400トンとなっています。そのうち主食用米の作付面積は15,800haで，稲作農家の減少や高齢化等により，年々，減少傾向にあります。
- ② 令和5年産の水稻の作柄は，作況指数101の「平年並み」，10a当たり単収は485kgでした。
- ③ 品種別では，普通期水稻の「ヒノヒカリ」が最も多く，次いで「コシヒカリ」（早期），「あきほなみ」（普通期）となっています。あきほなみ（県北産）は，（一財）日本穀物検定協会が実施する「米の食味ランキング」において，最高評価の「特A」を獲得するなど，高い評価を受けています。

●農業産出額

令和4年は169億円で，農業産出額全体の3.3%となっています。

●主要産地

早期水稻は県本土南部と熊本地域，普通期水稻は県本土中北部地域となっています。

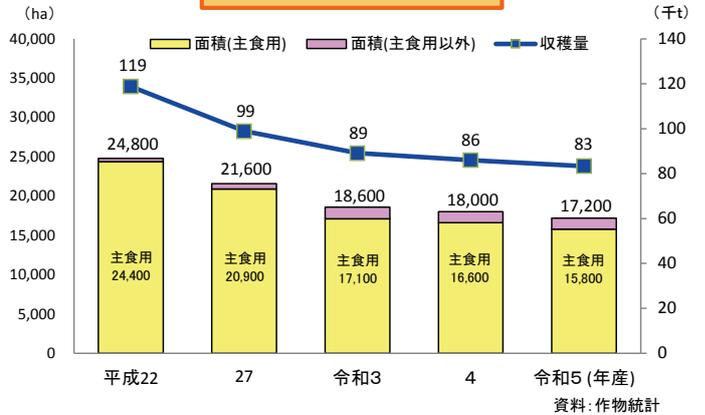
●今後の推進方向

県育成の収量・食味に優れた「あきほなみ」，「なつほのか」等の作付け拡大による売れる米づくりを推進するとともに，加工用米や飼料用米等の生産拡大，野菜等の高収益作物の導入・定着など水田のフル活用に努め，稲作農家の経営安定と生産性の高い水田農業の確立に取り組みます。

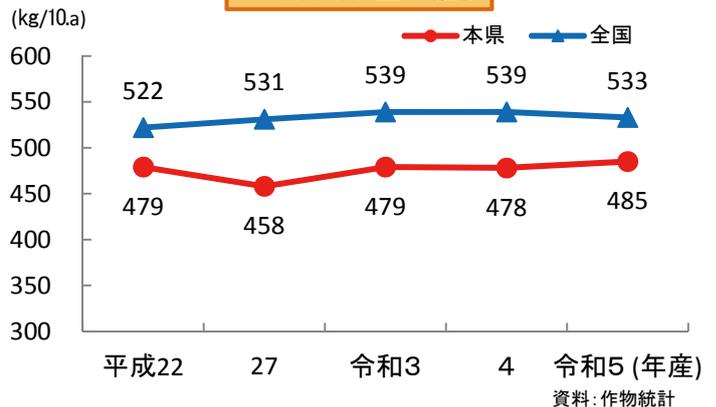


広がる水田地帯

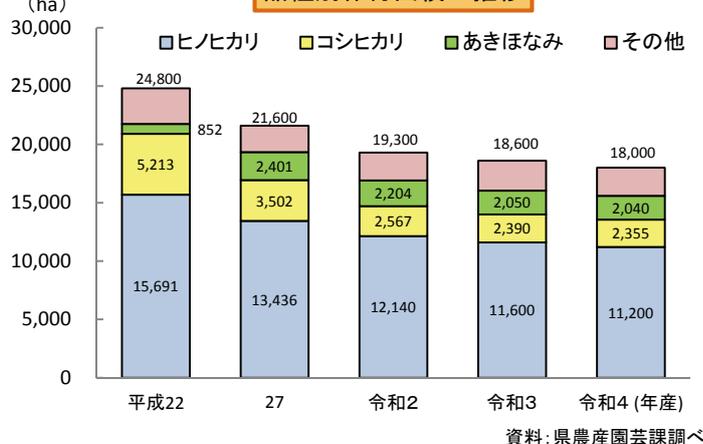
作付面積・収穫量の推移



10a当たり収量の推移



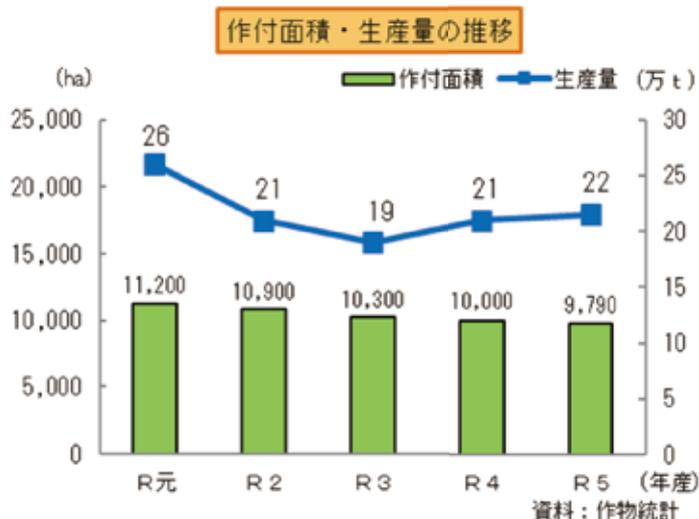
品種別作付面積の推移



(2) さつまいも（用途別需要に応じた計画的な生産）

●最近の情勢（作付面積、生産量）

- ① 令和5年産の作付面積は9,790haで、全国（32,000ha）の31%を占め、全国第1位を誇っています。
- ② 令和5年産は、作付面積が減少したものの、病害の発生が少なかったこと等により、生産量は21万5千tと前年を上回り、また、10a当たりの収量は2,200kg（前年105%）となりました。
- ③ さつまいもは、でん粉、焼酎、青果、食品加工用など幅広く利用されており、さつまいもの生産量のうち約5割が焼酎用、約3割がでん粉用に用いられています。



●農業産出額

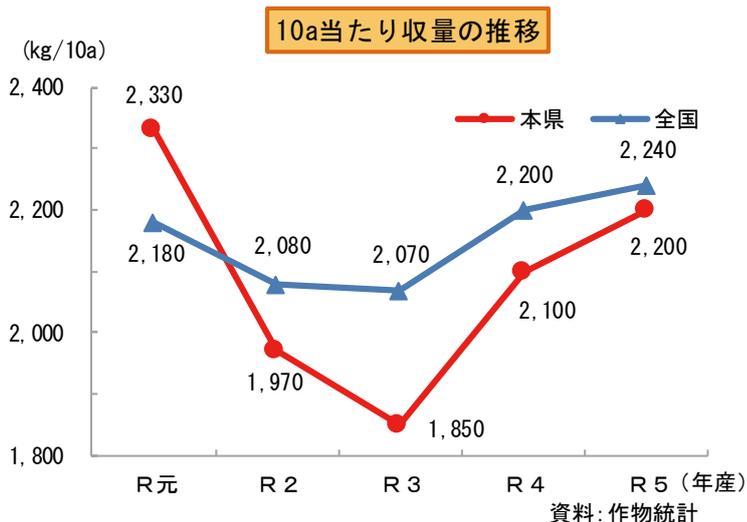
令和4年は165億円で、農業産出額全体の3.3%となっています。

●主要産地

大隅地域、南薩地域、熊毛地域などとなっています。

●今後の推進方向

用途別需要量に応じた計画的な生産を進めるとともに、「サツマイモ基腐病」対策の実施による単収向上や、省力機械の導入等による生産性向上を推進します。



品目別の生産動向

用途別の作付面積・生産量

(単位：ha, t, %)



	でん粉用		焼酎用		その他 (青果・食品加工用等)		計	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
R3	4,110	73,600	4,380	91,115	1,810	25,885	10,300	190,600
R4	2,490	53,500	4,617	98,014	2,893	57,636	10,000	210,000
(構成比)	(25)	(25)	(46)	(47)	(29)	(27)	(100)	(100)
R4/R3	61	73	105	108	160	223	97	110

資料：作物統計（栽培月・その他は農業産出額表調べ）

普通畑の約2割に作付けされるさつまいも

(3) 野菜（県全体に広がりのあるブランド産地の育成）

品目別作付面積等(令和4年産)

品目名	作付面積 (ha)	生産量 (t)	全国に占める産物		主要産地
			割合 (%)	地位 (位)	
ばれいしょ	4,370	97,600	6.1	2	長島町、利泊町、守仙町
キャベツ	1,990	74,500	5.9	5	指宿市、南九州市、九布市
だいこん	1,970	90,400	7.0	4	南九州市、大崎町、鹿屋市
にんじん	645	22,700	3.9	8	南九州市、鹿屋市、志布志市
かぼちゃ	638	6,890	4.1	7	指宿市、垂水市、喜界町
ごぼう	581	6,970	8.1	3	鹿屋市、曾於市、人崎町
さといも	503	1,240	5.0	5	鹿屋市、曾於市、和泊町
ねぎ	477	1,400	2.7	18	南さつま市、伊佐市、日置市
みやえんどう	476	1,980	16.1	1	垂水市、鹿屋市、鹿屋島市
オクラ	406	5,411	-	-	指宿市、南九州市、垂水市
はくさい	381	22,800	2.4	10	曾於市、志布志市、喜界市
ブロッコリー	373	3,480	2.2	13	中種子町、出水市、鹿屋市
そらまめ	229	3,230	14.5	2	指宿市、出水市、枕崎市
さやいんげん	223	2,120	5.0	4	垂水市、錦江町、南九州市
レタス	207	5,470	1.0	16	指宿市、いちき串木野市、錦江町

資料:「野菜生産出荷統計調査」, 県農産園芸課調べ

●最近の情勢（作付面積、生産量）

- 令和4年産の作付面積（ばれいしょ、青果用さつまいもを含む）は17,527haで、近年横ばいで推移しています。
- 令和4年産の生産量（ばれいしょ、青果用さつまいもを含む）は約453千トンで、近年横ばい傾向で推移しています。
- 近年、野菜の消費形態は外食・中食による摂取が増加傾向にあり、加工・業務用の需要が増加しています（需要割合約6割）。

●農業産出額

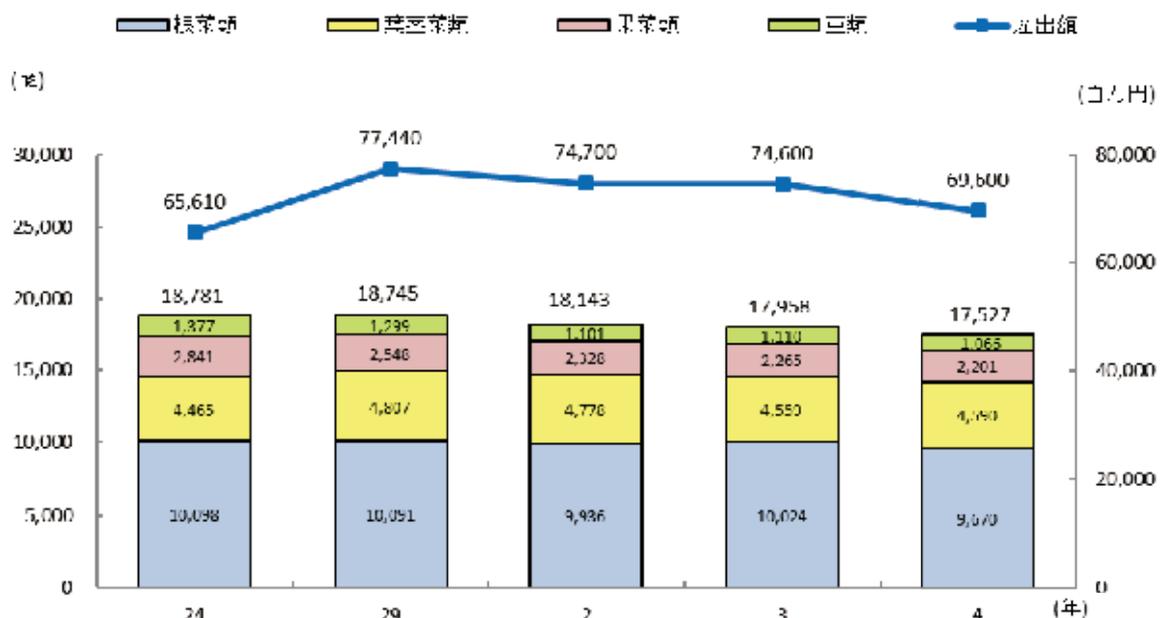
令和4年（ばれいしょ、青果用さつまいもを含む）は約696億円で、農業産出額全体の13.6%となっています。

●今後の推進方向

南北600kmにわたる地理的条件を生かし、安心・安全で環境との調和に配慮した野菜生産を基本に、重点品目を対象に施設化及び省力化の推進、集出荷施設等の整備を進め、高品質で安心・安全な野菜産地と加工・業務用需要に対応した野菜産地の育成に努めます。

品目別の生産動向

作付面積・産出額の推移



資料:「野菜生産出荷統計調査」, 県農産園芸課調べ、「生産農業所得統計」, 平成29年以降の産出額=県農産園芸課推計

(4) 果樹（地域の特性を生かした果樹ブランド産地の育成）

●最近の情勢（栽培面積・生産量）

- ① 令和3年産の栽培面積は3,352haで、年々減少しています。
- ② 令和3年産の生産量は、39,891tとなっています。

●農業産出額

令和4年は112億円で、農業産出額全体の2.2%となっています。

●今後の推進方向

適地適作を基本として、本県の優位性を発揮できるたんかん、大将季、紅甘夏、マンゴー、パッションフルーツ等の優良品目・品種への転換や、施設化の推進、園内作業道の整備、省力化機械の導入、高性能選果施設の整備、安心・安全な果実づくりの推進など、地域特性を生かした果樹ブランド産地の育成を図るとともに、果樹産地の構造改革を推進します。



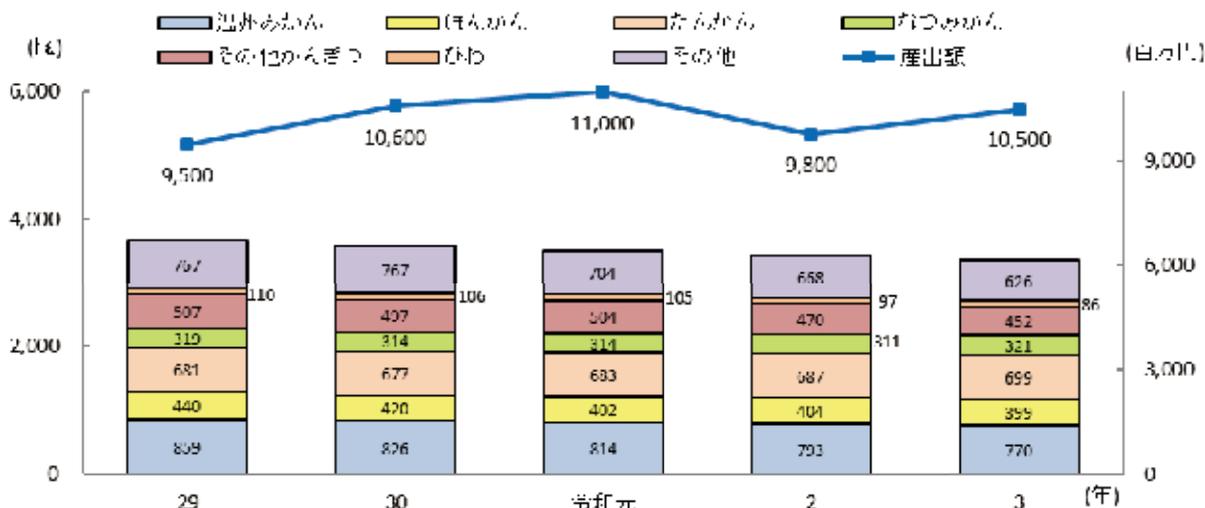
市場の期待が大きい「大将季」

品目別栽培面積等(令和3年産)

品目名	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	主要産地
温州みかん	770	15,191	出水市, いちき串木野市, 鹿児島市
ぽんかん	399	2,555	屋久島町, 肝付町, 南さつま市
たんかん	699	2,781	屋久島町, 奄美市, 徳之島町
なつみかん	321	11,010	出水市, 阿久根市, 長島町
不知火 (大将季含む)	124	1,706	出水市, 阿久根市, 長島町
きんかん	50	815	南さつま市, 薩摩川内市, 鹿児島市
びわ	86	216	鹿児島市, 垂水市, 指宿市
すもも	72	101	大和村, 奄美市, 瀬戸内町
ぶどう	69	752	霧島市, 薩摩川内市, 出水市
マンゴー	62	398	知名町, 奄美市, 和泊町
パッション フルーツ	36	307	屋久島町, 奄美市, 瀬戸内町
県計	3,352	39,891	

資料: 市町村報告

栽培面積・産出額の推移



資料: 生産農業所得統計, 市町村報告

(5) 花き（消費者ニーズに対応した花きブランド産地の育成）

●最近の情勢（作付面積）

- ① 令和4年産の花き（切花類，球根類，鉢物類，花き苗類，芝，地被植物類）の作付面積は867haで，年々減少しています。
このうち切花類は，435haで全体の50%を占めています。
- ② 本県は，全国有数の花き生産県であり，ソリダゴ，グラジオラスは全国1位，レザーリーフファン，観葉植物は全国2位，キクは全国4位の作付面積を誇っています。

●農業産出額

令和4年は125億円で，農業産出額全体の2.4%となっています。

●今後の推進方向

施設化・省力化による経営の安定化を図るとともに，キク類やテッポウユリ等に加え，需要の拡大が見込まれる収益性の高い品目・品種の導入を推進します。

また，「フラワーコンテスト」，「フラワーフェスタinかごしま」の開催や，「フラワーパークかごしま」における各種イベント等を通じて，県産花きの需要喚起と消費拡大に努めます。

品目別作付面積等(令和4年産)

品目名	栽培面積 (ha)	出荷量 (千本)	主要産地
キク	189	60,518	枕崎市, 和泊町, 鹿屋市
ユリ	27	5,115	和泊町, 知名町, 鹿屋市
観葉植物	44	1,474	指宿市, 鹿児島市, 南九州市
ソリダゴ	36	18,186	和泊町, 知名町, 与論町
グラジオラス	35	3,317	和泊町, 知名町, 指宿市
レザーリーフファン	12	3,430	南種子町, 中種子町, 西之表市

資料：市町村報告

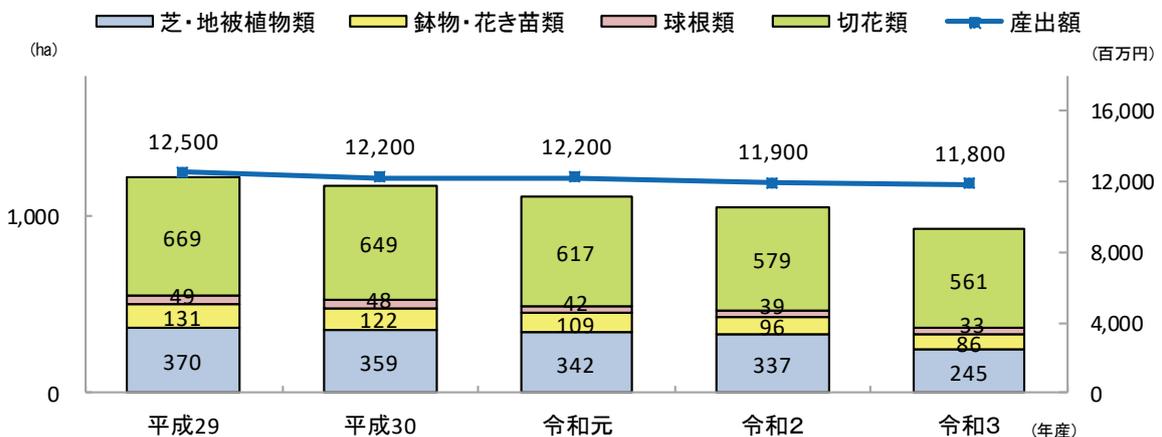


令和5年度鹿児島県フラワーコンテスト



フラワーフェスタinかごしま2024

作付面積・産出額の推移



資料：花き生産出荷統計調査，花木等生産状況調査

(6) さとうきび（「さとうきび増産計画」の達成に向けた取組の推進）

●最近の情勢（収穫面積、生産量）

- ① 令和4年産の収穫面積は9,570haで、本県南西諸島の約6割の農家が生産している基幹作物となっています。
- ② 令和4年産は、台風等の大きな気象災害の影響も無かったことから、県全体の生産量は約53万t（平年比103%）と平年を上回り、また、10a当たりの収量も、5,580kg（平年比104%）となりました。
- ③ 鹿児島・沖縄両県の生産量は約127万tで、約4割が本県で生産されています。

●農業産出額

令和4年は128億円で、農業産出額全体の2.5%となっています。

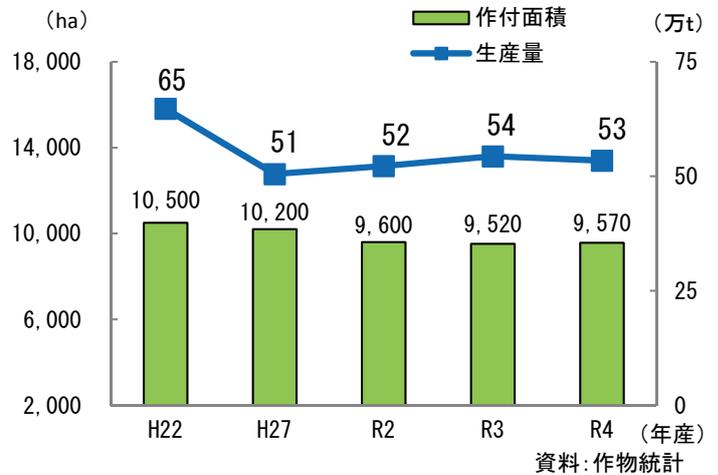
●主要産地

種子島、奄美地域となっています。
製糖（分みつ糖）工場は、種子島に1工場（1社）、奄美地域の5島に6工場（5社）あり、さとうきび生産量の99%が分みつ糖用に利用されています。

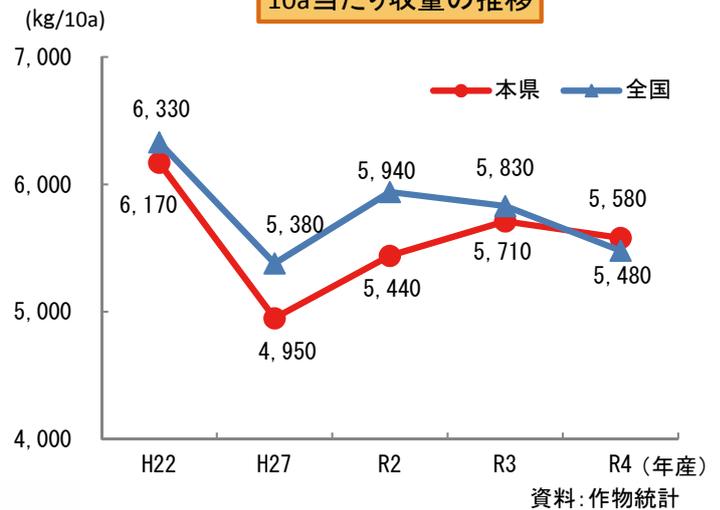
●今後の推進方向

さとうきびの収穫面積の確保や単収向上などを図るため、農作業受託組織等の育成や、堆肥投入等による土づくり、優良品種の育成・普及などに取り組みます。

作付面積・生産量の推移



10a当たり収量の推移



品目別の生産動向



小型ハーベスタによる収穫



けん引式中耕機（スクープ）による作業の効率化（中耕ロータリ作業時間と比較し、1/4に短縮）

(7) 茶（強みやポテンシャルを生かした「儲かる茶業経営」の実現）

●最近の情勢（栽培面積、生産量）

- ① 令和5年産の栽培面積は8,140haで、全国的に減少する中、本県においてはほぼ横ばいで推移しています。
- ② 令和5年産の荒茶生産量は26,100tとなり、全国シェアの約35%を占める全国第2位の茶産地となっています。
- ③ 全国茶品評会において、20年連続の「産地賞」や、「農林水産大臣賞」を受賞するなど、品質もトップレベルにあります。
- ④ 抹茶の原料となるてん茶やドリンク原料茶など、需要に対応した茶づくりが進んでいます。また、多様な品種が栽培されています。
- ⑤ 令和5年度の有機栽培茶面積は799ha（うち有機JAS認証624ha）であり、有機JAS認証面積は、令和元年以降全国一を誇っています。

●農業産出額

令和4年は234億円で、農業産出額全体の4.6%となっています（静岡県：244億円）。

●主要産地

茶は、県内各地で栽培されており、温暖早場地帯、畑作平坦地帯、山麓傾斜地帯など、立地条件を生かした特色ある茶づくりが進んでいます。

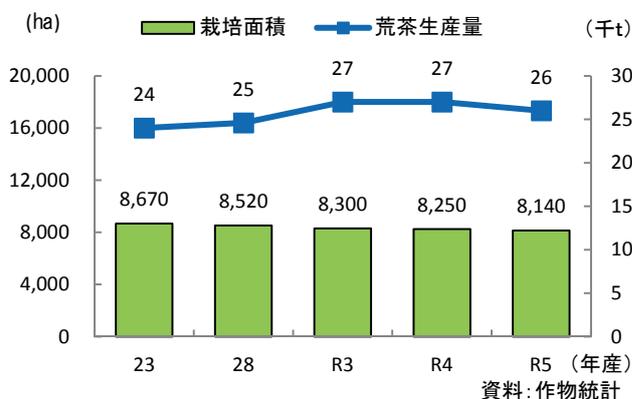
●輸出状況

本県の茶の輸出額は、米国、EU、台湾を中心に令和4年度が約13.4億円（前年比117%）で、輸出量は847.5トン（前年比140%）となっており、着実に伸びています。

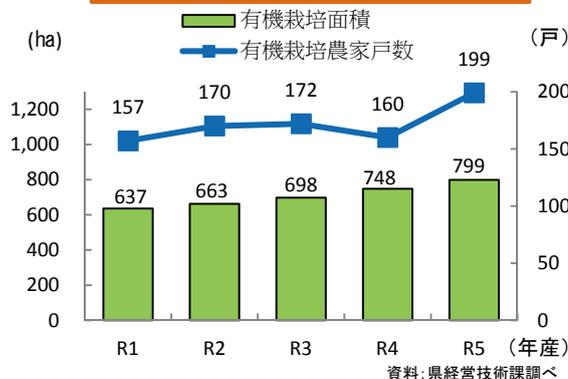
●今後の推進方向

大型管理機械の導入による高い生産性、海外輸出に向けた有機JAS認証取得の推進や抹茶加工施設の整備支援など、本県茶業が有する強みやポテンシャルを生かし、生産体制の強化、ニーズに対応した茶づくり等による付加価値向上や更なる消費拡大など、「儲かる茶業経営」の実現に向けた取組を進めます。

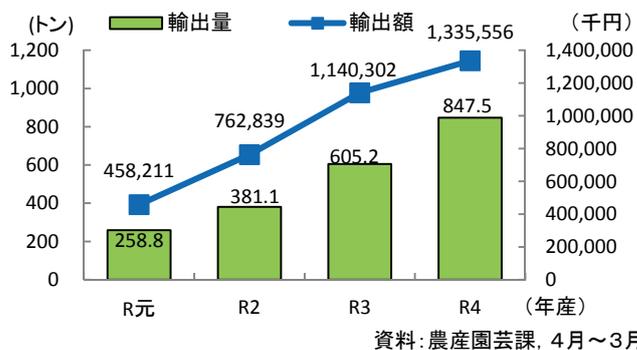
栽培面積・荒茶生産量の推移



茶の有機栽培面積・農家戸数の推移



茶の輸出額・輸出量の推移

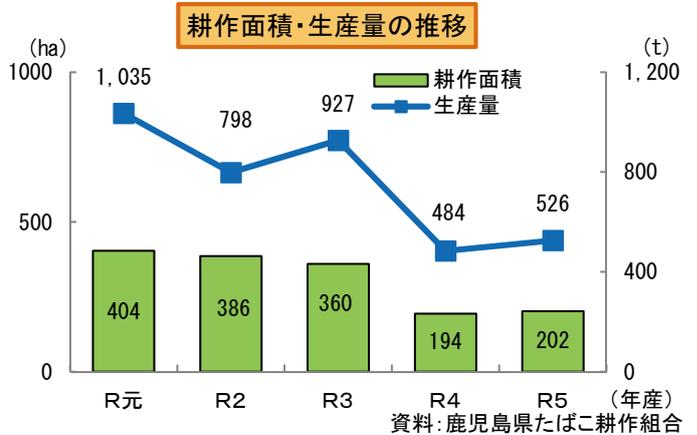


大規模で効率的な生産が進む本県茶業

(8) 葉たばこ（低コストで高品質な葉たばこづくり）

●最近の情勢（耕作面積，生産量）

- 令和5年産の耕作面積は、202haと前年比べて4%増加しました。
また、1戸当たりの耕作面積は、2.17haとなっています。
- 令和5年産は、生育期の天候が良好だったこともあり、生産量は526t、10a当たり収量は261kg（前年比104%）、Aタイプ率は、62%（前年比105%）と前年を上回る結果となりました。



●農業産出額

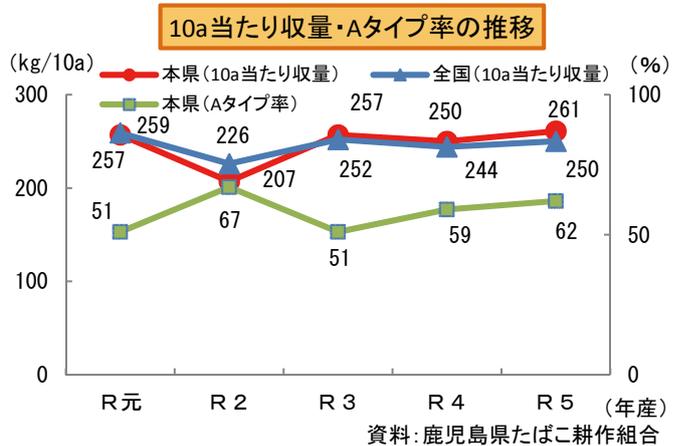
令和4年は10億円で、全国第7位となっています。

●主要産地

南薩地域，北薩地域，大隅地域，種子島，沖永良部島などです。

●今後の推進方向

担い手の育成や、高単収・高品質な葉たばこ生産の推進など、関係機関・団体と一体となって取り組みます。



高単収・高品質な葉たばこ生産



葉たばこの乾操作業

(9) 肉用牛（生産基盤の維持拡大による安定供給）

●最近の情勢（飼養頭数・戸数，出荷頭数）

- 令和5年の飼養頭数は、357,800頭で、全国の13.3%を占めています。また、肉用牛の中でも肉質の優れた黒毛和種の飼養頭数は343,400頭で、全国第1位となっています。
- 令和5年の飼養戸数は、6,350戸（対前年比94.9%）となっています。
- 令和5年の子牛の出荷頭数は、92,700頭となっています。

●農業産出額

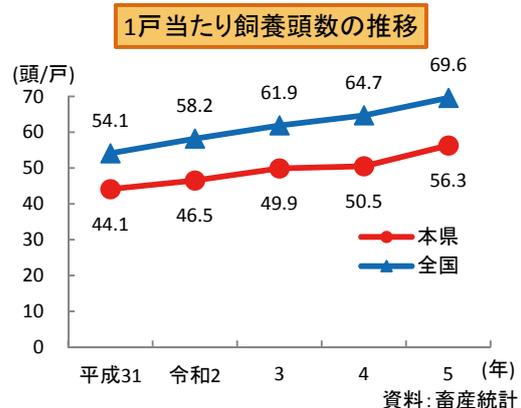
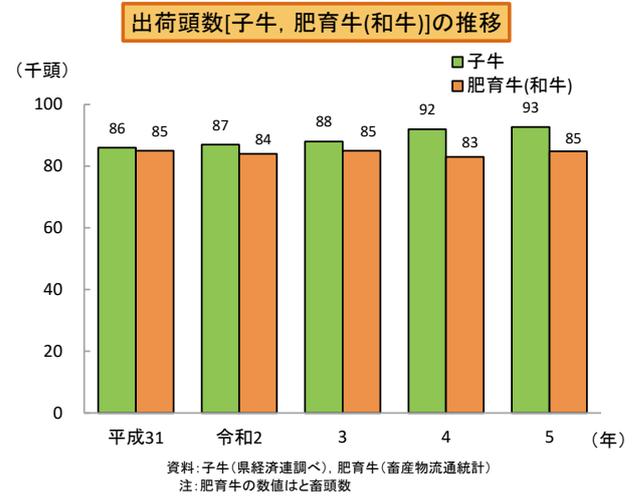
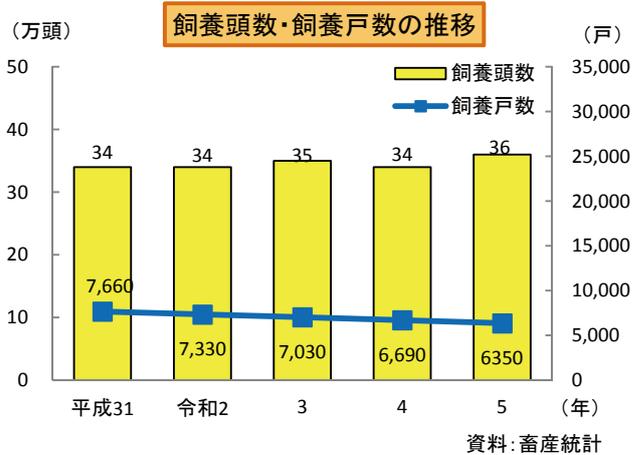
令和4年は1,228億円（対前年比99.0%）で、農業産出額全体の24.0%となっています。

●主要産地

肉用牛は、県内各地で飼育され、主要産地は、大隅地域、大島地域などとなっています。

●今後の推進方向

- 肉用牛の生産基盤の維持・拡大を図るため、県や関係機関・団体からなる「肉用牛振興協議会」が中心となり、統一した指導体制のもと、担い手となる経営体の育成や、畜舎等の整備、自給飼料の増産を支援することにより、段階的な規模拡大を推進します。
- 専業農家の更なる規模拡大と小規模・高齢農家の経営継続を図るため、ヘルパーやコントラクター等の支援組織の利用やICT等を活用した飼養管理作業等の分業化・省力化を推進します。
- 遺伝子解析等の手法を活用した優良種雄牛の造成等や、これらの遺伝的能力に対応した飼養管理技術の開発を推進します。
- 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の成果を踏まえ「和牛日本一」を前面に打ち出し、「鹿児島黒牛」のPRとブランド力の強化を図ります。



雄大な自然に育まれた「鹿児島黒牛」

(10) 乳用牛（高品質な生乳の安定供給）

●最近の情勢（飼養頭数・戸数，生乳生産量）

- ① 令和5年の飼養頭数は12,800頭（対前年比97.7%）で，減少傾向で推移しています。
- ② 令和5年の飼養戸数は138戸で，減少傾向で推移しています。
- ③ 令和5年の1戸当たりの飼養頭数は92.8頭で，多頭化が進んでいます。
- ④ 令和5年の生乳生産量は69,512 tとなっています。

また，令和5年の用途別処理量は，飲用向け67.9%，乳製品向け31.7%となっています。

●農業産出額

令和4年は98億円（対前年比95.1%）で，農業産出額全体の1.9%となっています。

●主要産地

大隅地域，熊毛地域，南薩地域などとなっています。

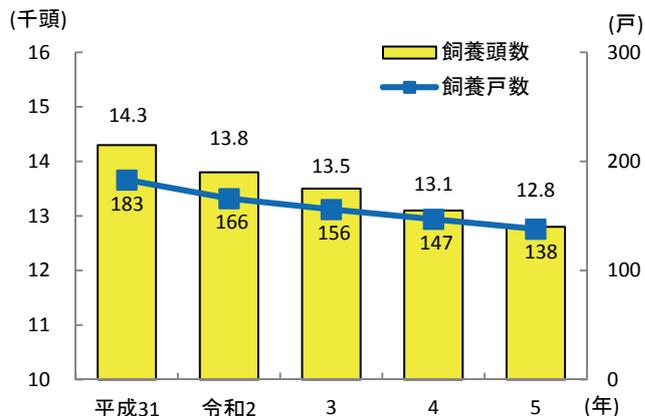
●今後の推進方向

- ① 需要に見合った計画生産を基本として，酪農経営の安定向上を図ります。また，乳用牛群検定による個体管理，性判別精液や受精卵移植技術等の活用による優良後継牛の確保，搾乳牛の維持・増頭，夏期需要期の生乳生産の促進及び供用年数の延長による生涯生乳生産量の向上を推進します。
- ② 酪農ヘルパーやコントラクター等の支援組織の利用や，自給飼料の増産，育成預託の推進，ICT技術の活用等による飼養管理作業等の分業化・省力化を推進します。



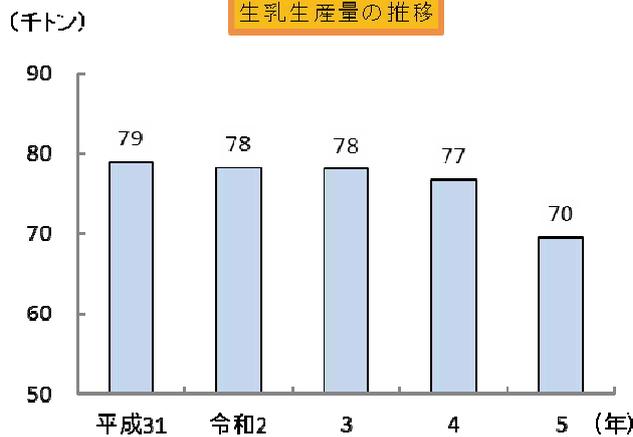
放牧で育成された乳用牛

飼養頭数・飼養戸数の推移



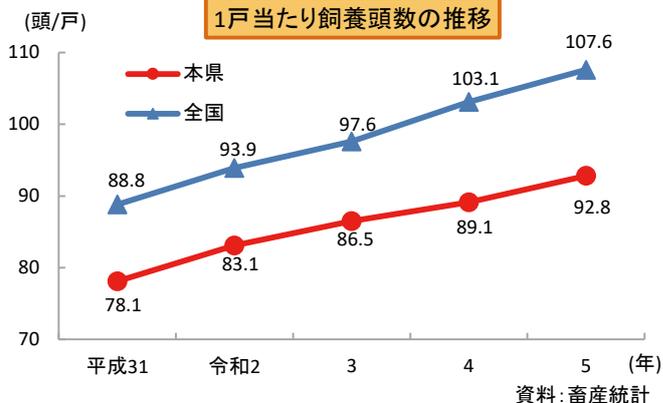
資料: 畜産統計

生乳生産量の推移



資料: 牛乳乳製品統計

1戸当たり飼養頭数の推移



資料: 畜産統計

(11) 豚（高品質な豚肉の安定供給）

● 最近の情勢（飼養頭数・戸数，出荷頭数）

- ① 令和5年の飼養頭数は115万頭（対前年比96.2%）で、全国第1位となっています。
- ② 令和5年の飼養戸数は443戸で、年々減少しています。
- ③ 令和4年の県内の肉豚出荷頭数（と畜頭数）は、264万頭（対前年比95.9%）で全国第1位となっており、うち県産黒豚は28万頭となっています。

● 農業産出額

令和4年は909億円（対前年101%）で、農業産出額全体の17.8%となっています。

● 主要産地

養豚団地は、各地に形成されていますが、主要産地は、大隅地域などとなっています。

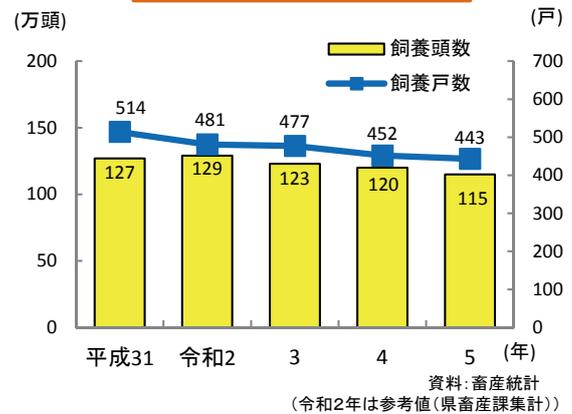
● 今後の推進方向

- ① 競争力のある経営体の育成と高品質な豚肉の低コスト生産を推進するため、かごしま黒豚の種豚の改良や飼養管理施設等の整備を進めるとともに、飼養衛生管理技術の向上に努めます。
- ② 「かごしま黒豚」の一層の銘柄化を図るため、系統豚「ニューサツマ」, 「サツマ2001」, 「クロサツマ2015」の利用を推進するとともに、第5系統豚の造成を進めます。

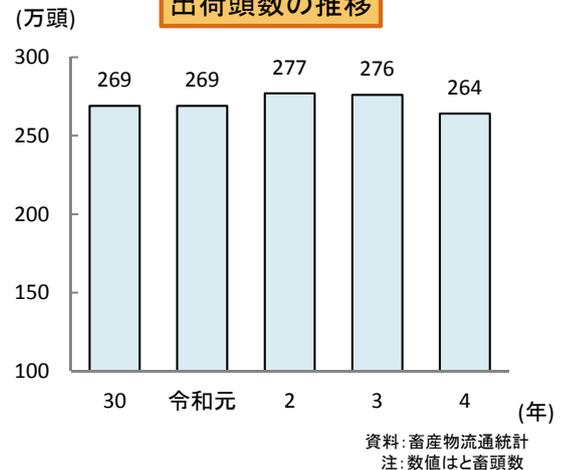


第4系統豚「クロサツマ2015」
（平成27年11月認定）

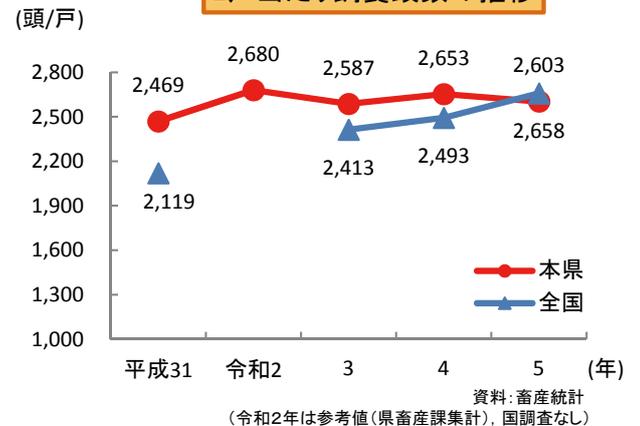
飼養頭数・飼養戸数の推移



出荷頭数の推移



1戸当たり飼養頭数の推移



(12) 採卵鶏（安全で新鮮な鶏卵の安定供給）

●最近の情勢（飼養羽数・戸数，鶏卵出荷量）

- ① 令和5年の飼養羽数は11,582千羽（対前年比98.7%）となっています。
- ② 令和5年の飼養戸数は93戸となっています。
- ③ 令和4年の鶏卵生産数量は179,337t（対前年比97.9%）で、全国第2位となっています。

●農業産出額

令和4年は316億円（対前年比100%）で、農業産出額全体の6.2%となっています。

●主要産地

主要産地は、大隅地域、北薩地域、南薩地域などとなっています。

●今後の推進方向

安全・安心，高品質な鶏卵の低コスト生産や飼養衛生管理技術の向上，生産性の高い鶏舎や鶏卵処理施設等の整備を推進します。

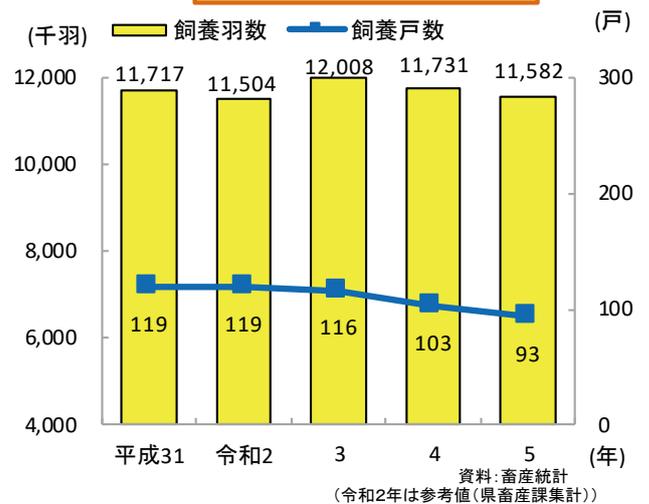


安全で高品質な鶏卵の生産

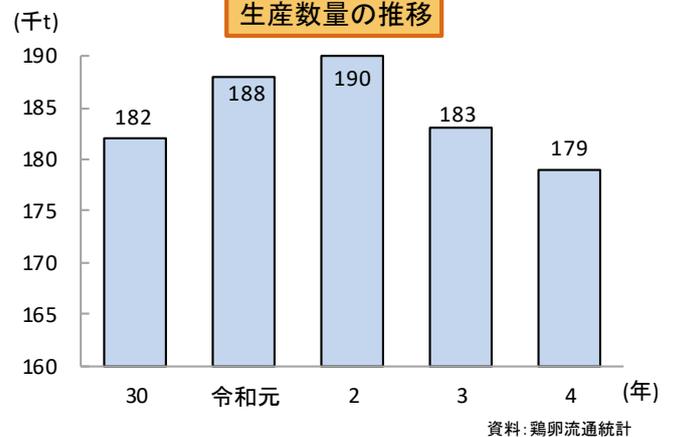


鶏卵処理施設

飼養羽数・飼養戸数の推移

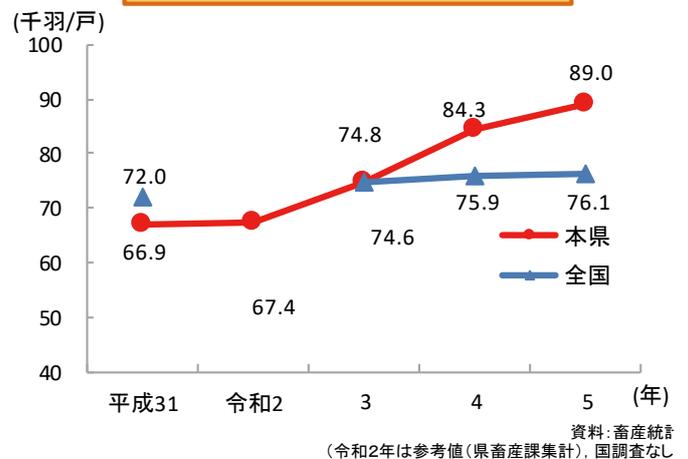


生産数量の推移



品目別の生産動向

1戸当たり成鶏めす飼育羽数の推移



(13) 肉用鶏（消費者ニーズに対応した鶏肉の安定供給）

●最近の情勢（飼養羽数・戸数，出荷羽数）

- ① 令和5年の飼養羽数は31,285千羽（対前年比111.4%）となっています。
- ② 令和5年の飼養戸数は390戸となっています。
- ③ 令和5年の出荷羽数は159,080千羽（対前年比110.2%）で、全国第1位となっています。

●農業産出額

令和4年は889億円（対前年比120.8%）で、農業産出額全体の17.4%となっています。

●主要産地

主要産地は、大隅地域などとなっています。

●今後の推進方向

安全・安心，高品質な鶏肉生産や飼養衛生管理技術の向上を推進するとともに，県が開発した「かごしま地鶏」（「さつま若しゃも」，「さつま地鶏」，「黒さつま鶏」）のブランド力向上を図るため，飼料用米給与体系を取り入れた飼養マニュアルの活用による肉質向上や県産地鶏の認知度向上に向けた取組を推進します。



さつま地鶏 商標

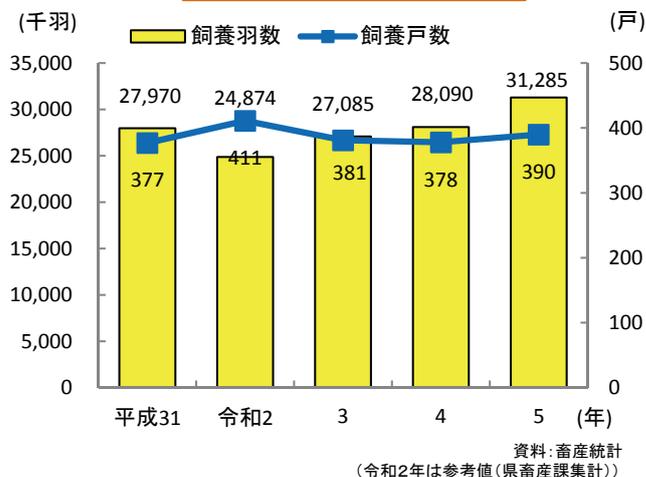


黒さつま鶏 商標

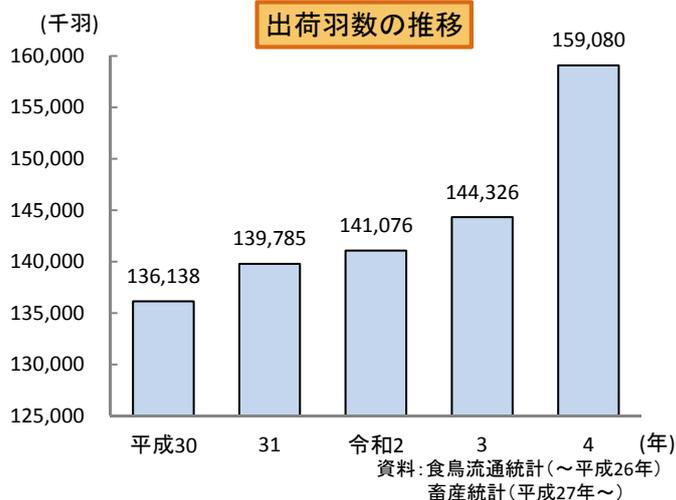


黒さつま鶏

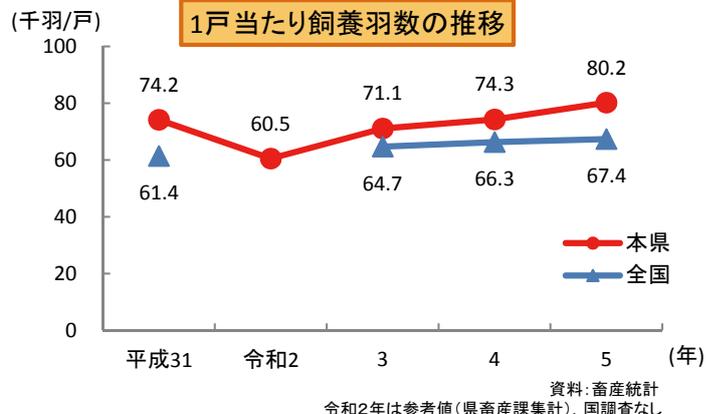
飼養羽数・飼養戸数の推移



出荷羽数の推移



1戸当たり飼養羽数の推移



V 作物カレンダー

作物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地
水稲			播種	田植		播種	田植	収穫		収穫			熊毛, 薩摩半島中南部, 大隅半島南部 県本土
大豆							播種				収穫		県本土
さつまいも (青果用)	超早掘	植付				収穫						植付	南薩
	早掘		植付				収穫						南薩, 曾於, 肝属
	普通掘			植付				収穫					南薩, 曾於, 肝属, 熊毛
	でん粉用				植付				収穫				
さとうきび	春植	植付										収穫	種子島, 奄美地域
	夏植						植付					収穫	
茶				一番茶	二番茶	三番茶	四番茶			秋冬番茶			県本土, 熊毛, 徳之島
葉たばこ	播種	植替	植付		収穫								南薩, 北薩, 大隅, 種子島, 沖永良部島
だいこん	春まき	播種			収穫			播種		収穫			肝属, 始良, 曾於
	夏まき								播種		収穫		始良
	秋まき	収穫								播種		収穫	曾於, 南薩, 肝属
	冬まき	播種									播種		曾於, 肝属, 南薩, 始良
さといも	早掘	植付				収穫						植付	曾於
	普通		植付							収穫			沖永良部島, 与論島 肝属, 曾於, 始良, 川薩
ばれいしょ	早掘	収穫									植付		出水, 沖永良部島, 徳之島, 種子島, 肝属
	春作	植付			収穫								出水
	秋作	収穫						植付				収穫	出水
根深ねぎ	春まき	播種				植付						収穫	肝属, 南薩, 伊佐, 日置
	夏まき							播種				収穫	南薩, 伊佐, 始良
	秋まき	収穫							植付				南薩, 始良
	冬まき	播種	植付							収穫			伊佐, 始良
キャベツ	春まき	播種										収穫	指宿, 南薩, 曾於
	夏まき								播種		植付		指宿, 肝属, 曾於
	秋まき	収穫								播種		植付	肝属, 曾於

作物カレンダー

作物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地	
はくさい	普通							播種					曾於, 肝属	
	冬まき		収穫							植付		収穫	始良	
フロッコリー	夏まき							播種		植付		収穫	肝属, 始良	
	秋まき		収穫						播種		植付	収穫	種子島, 肝属, 喜界島	
にんじん	普通		収穫						播種				肝属, 始良	
	秋まき		収穫						播種				南薩, 指宿, 肝属, 曾於	
ごぼう	普通掘			播種						収穫			曾於, 肝属	
	新掘		収穫						播種				肝属, 曾於, 川薩, 伊佐, 始良	
	新掘			収穫							播種		肝属, 曾於	
	新掘			播種				収穫					肝属, 曾於	
かぼちゃ	半促成	植付										播種	南薩, 曾於, 肝属	
	早熟	播種	植付									播種	指宿, 鹿児島, 伊佐, 大島, 出水	
	抑制							播種				収穫	指宿, 南薩, 肝属, 曾於	
きゅうり	促成			収穫						播種		植付	収穫	肝属, 曾於
	半促成		播種		植付							収穫	肝属	
	抑制								播種		植付	収穫	曾於	
さやえんどう	冬どり		収穫								播種		収穫	指宿, 出水, 南薩
	冬どり		収穫								播種		収穫	指宿, 肝属, 種子島
	冬どり		収穫								播種		収穫	肝属
さやいんげん	促成			収穫							播種		収穫	肝属, 沖永良部島
	半促成		播種									播種	肝属	
	早熟		播種		収穫								肝属, 与論島	
そらまめ	露地		収穫						播種		植付		収穫	指宿
	普通			収穫						播種		植付	出水, 南薩	
ピーマン	促成			収穫				播種		植付		収穫	南薩, 肝属	
	普通			収穫					播種		植付	収穫	曾於	
オクラ	普通				収穫					植付			南薩, 曾於, 川薩	
オクラ	半促成		播種										指宿, 南薩	
	早熟			播種									鹿児島, 出水	
いちご	普通			播種									指宿, 肝属, 出水	
	促成						鉢受け			植付		収穫	曾於, 日置, 川薩, 出水, 始良, 肝属, 南薩	
みかん	ハウス	開花											曾於, 出水, 日置	
	露地				開花							収穫	出水, 日置, 川薩	
紅甘夏		収穫			開花								出水	
ほんかん		収穫										収穫	屋久島, 種子島, 大隅, 南薩	

作物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地		
たんかん		収穫		開花									屋久島、大島、南薩、種子島		
火(大) 不(知) 季	収穫		開花									収穫	出水、日置、曾於 出水、南薩、日置		
さんかん	収穫					開花						収穫	川薩、南薩 南薩、川薩		
びわ	袋かけ	収穫										開花	大隅、鹿児島 鹿児島、大隅、出水		
紀州みかん(小みかん)	収穫					開花						収穫	鹿児島、始良		
マンゴー		開花				収穫						開花	曾於、指宿、大隅、熊本 奄美全域、熊本		
辺塚だいだい						開花						収穫	大隅		
パッションフルーツ				開花		収穫							曾於、指宿、大隅 大島全域、熊本全域		
キク	秋タイプ	12月							電照			定植	電照	収穫	南薩、大隅、指宿、曾於
	夏秋タイプ	8月							電照			定植	電照	収穫	
キク	秋タイプ	12月							電照			定植	電照	収穫	南薩、指宿、大隅、曾於、 沖永良部島
	夏秋タイプ	8月							電照			定植	電照	収穫	
ソリダゴ	10+1+5月出荷		電照						電照			電照	電照	収穫	日置、沖永良部島、与論島
	11+3+6月出荷		電照						電照			電照	電照	収穫	
	12+4+7月出荷		電照						電照			電照	電照	収穫	
	8+11+3月出荷		電照						電照			電照	電照	収穫	
テッポウユリ	超促成								休眠打破処理	冷蔵		定植		収穫	沖永良部島、南薩、大隅
	促成								休眠打破処理	冷蔵		定植		収穫	
	半促成								休眠打破処理	冷蔵		定植		収穫	
リーフレター	春植え											定植		種子島	
秋植え											定植				

リレー出荷体制の確立

本県では、南北600kmの地理的条件を生かし、特産野菜のリレー出荷を行っています。

主な品目	作型	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
ばれいしょ	早掘												
	春作												
さといも	早掘												
	普通												
そらまめ	冬どり												
	普通												

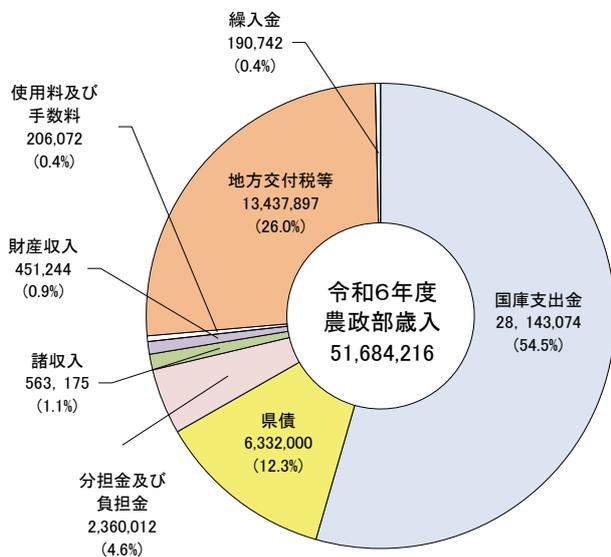
VI 農政の推進体制

1 農政部予算総括

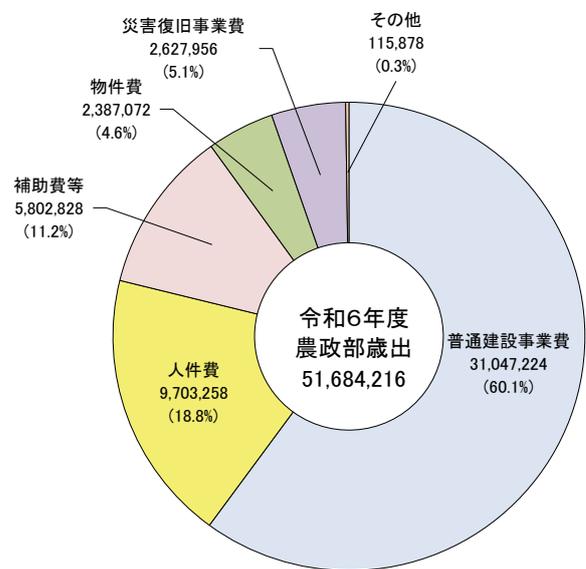
【農政部】 (単位:千円, %)

区 分		令和6年度 当初(千円)	令和5年度 当初(千円)	伸び率(%) (R6/R5)
一 般 会 計	農 業 費	14,394,478	14,644,003	98.3
	畜 産 業 費	10,633,271	9,211,922	115.4
	農 地 費	23,911,932	24,192,457	98.8
	小 計	48,939,681	48,048,382	101.9
	災 害 復 旧 費	2,744,535	3,258,300	84.2
	計	51,684,216	51,306,682	100.7
	うち 公 共 事 業	24,334,411	24,348,603	99.9
	うち 県 単 公 共 事 業	322,479	322,479	100.0
特 別 会 計	就 農 支 援 資 金 貸 付 事 業	48,791	50,427	96.8
合 計		51,733,007	51,357,109	100.7

令和6年度一般会計
《歳入予算の状況》

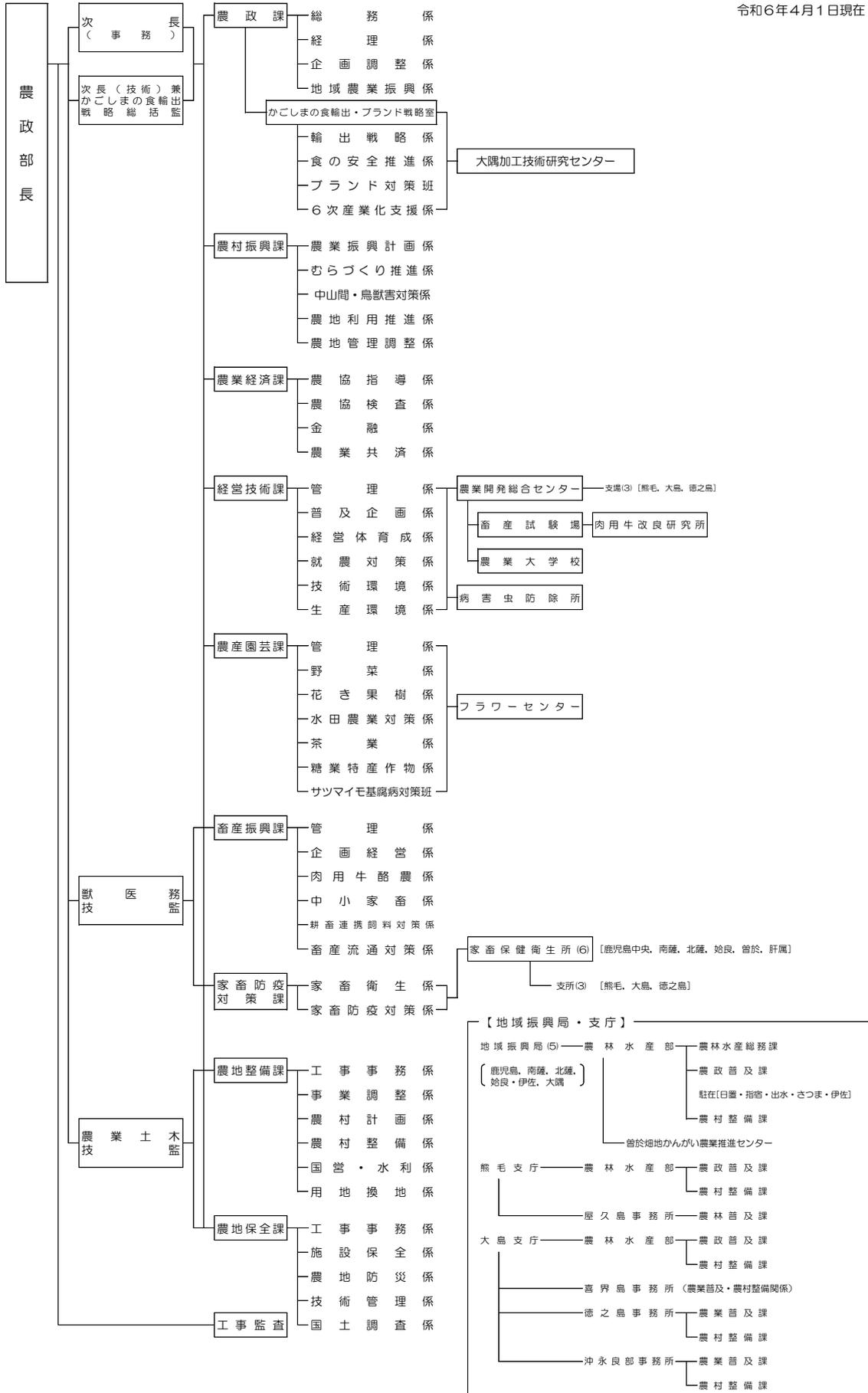


令和6年度一般会計
《歳出予算の状況》



2 農政部機構図

令和6年4月1日現在



技術を生み出し、
人を育てる

大隅加工技術研究センター

(平成27年4月開設)

県産農産物の付加価値向上に向けて、品質の維持・向上を図る保蔵・流通技術や素材の特長を生かした加工技術の開発に取り組んでいるほか、施設の開放により食品加工事業者等が自ら行う加工品の開発支援等を行っています。



アクセス



お問い合わせ

〒893-1601
鹿屋市串良町細山田4938番地
TEL 0994-31-0311
FAX 0994-31-0319
URL <http://www.oosumi-kakou.com/>
E-mail kagiken@pref.kagoshima.lg.jp

- 鹿児島市内から桜島フェリーまたは鴨池フェリー経由、車で約100分
- 鹿児島市内から九州縦貫自動車道・東九州自動車道・大隅縦貫道細山田IC経由、車で約90分
- 鹿児島空港から九州縦貫自動車道・東九州自動車道・大隅縦貫道細山田IC経由、車で約75分
- 志布志港から東九州自動車道・大隅縦貫道細山田IC経由、車で約30分

ゆっくり楽しむ花の国
花・風・光の自然浴

フラワーパークかごしま

東には錦江湾のきらきら光る海。西には美しい姿でそびえる開聞岳。太陽の光とさわやかな潮風の香に包まれた「花・風・光のシンフォニー」をテーマとした植物公園です。

県民が花と緑に親しむ憩いの場として、また、花の生産と観光の振興に寄与する施設として四季折々の花が楽しめます。

場所



お問い合わせ

〒891-0513
指宿市山川岡児ヶ水1611番地
TEL 0993-35-3333
FAX 0994-35-3555
URL <http://www.fp-k.org/>



令和6年3月発行 ■ 編集発行 鹿児島県農政部農政課
鹿児島市鴨池新町10番1号
電話 099-286-3091 FAX 099-286-5587
URL <http://www.pref.kagoshima.jp/>